

今、大阪から世界に広がる がん撲滅への挑戦！

『2025年大阪・関西万博』成功祈念・熊本県被災地支援

世界がん撲滅サミット 2021[®] すべてのがんにリベンジを！ in OSAKA

THE World Cancer Eradication Summit 2021 in OSAKA

2021年12月5日(日)

<https://cancer-zero.com>
参加無料(要入場チケット)

開場 12:30

開演 13:00

会場

大阪国際会議場
5階 メインホール

主催 世界がん撲滅サミット 2021 実行委員会

共催 アライアンス・フォーラム財団

協賛

ロート製薬株式会社、東レ株式会社、株式会社ヤクルト本社、株式会社ツムラ、ダイダイン株式会社
TOTO 株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、小野薬品工業株式会社、ALSOK 総合警備保障株式会社
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン、未来トラスト株式会社、マザーケアジャパン株式会社
アーク不動産株式会社、OSPグループ、ジャパンエステート株式会社
メディカルサービス株式会社、TRIBAWL株式会社、株式会社オキ・コーポレーション
みやび坂総合法律事務所、株式会社重岡、岡山県極真空手道連盟 (ほかの皆様(順不同))

協力 株式会社エキスプレス、TRIBAWL株式会社

後援

大阪府、大阪市、一般社団法人 大阪府医師会、大阪府医師協同組合、公益社団法人 関西経済連合会
一般社団法人 関西経済同友会、大阪商工会議所、外務省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省
総務省、農林水産省、デジタル庁、AMED 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構、公益社団法人 日本医師会
国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所
公益社団法人 経済同友会、日本製薬団体連合会、一般社団法人 日本建設業連合会、一般社団法人 不動産協会
一般社団法人 生命保険協会、一般社団法人 日本損害保険協会、一般社団法人 全国警備業協会
一般社団法人 情報サービス産業協会、一般社団法人 ソフトウェア協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN
公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、読売新聞社

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 提唱者 歓迎のご挨拶



中見 利男

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』代表顧問、提唱者
作家・ジャーナリスト

本日は『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』にお越しくださいまして誠にありがとうございます。

大阪での初開催となる本大会を応援いただいた大阪府、大阪市、関西経済連合会、大阪府医師会、大阪府医師協同組合をはじめとする地元の皆様には心より御礼申し上げます。

また、これまでの大会をお支えいただいた政府ご関係者、ご協賛社、横浜市、東京都の皆様、そしてがん撲滅サミットの推進力となっていた患者、ご家族の皆様には御礼の言葉もないほどです。

だからこそ、ご恩返しの意味でも我々はがん医療改革を進めるために歩みを止めることなどないのです。これから人類をがんから解放するために我々はさらに強力に前進を開始致します。

2013年9月、もともと作家だった私が身内のがん発症をきっかけにペンを剣に持ち替えて立ち上がったのも、すべてのがんにリベンジを果たすためでした。幸い2025年大阪・関西万博では医療がテーマの重要な柱に位置づけられています。がん医療も未来に向けて剣とペンを駆使しながら新しい地図を描いていかねばならない時期にきております。

そこで我々は今回、『世界がん撲滅大阪宣言 2021』のなかで大阪のPMDA 関西支所に遺伝子医療、再生医療、細胞医療に関する先端医療の審査機能を新しく付与することで機能強化を進めたいというご提案を大阪府をはじめとする皆様にさせていただくことに致しました。それこそが『大阪医療ルネッサンス構想』です。これからも、この構想を手にしながら邪を打ち砕き、正しい事は正しいと皆様が納得できる、いわゆる『破邪顕正』の精神でより良き社会の実現のために粉骨砕身努力して参ります。

本日は、本当に素晴らしい、ここ大阪国際会議場でごゆっくりお過ごしください。

世界がん撲滅サミット2021 in OSAKA

PROGRAM

12:15 開場 大阪国際会議場

13:00～13:30 来賓ご挨拶並びにご紹介

世界がん撲滅への戦略講演

13:30～13:45 大会長講演「がん撲滅・世界連携最前線 2021」

法務省 危機管理会社法制会議 議長、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原 丈人 先生

13:45～14:00 米国代表講演「米国が描くがん撲滅戦略 2021」

(リモート参加) シカゴ大学プレジジョン医療研究センター センター長・教授 マーク・J・ラティン 先生
(臨床試験の国際的リーダーであり、世界のがん医療界の重鎮)

14:00～14:15 厚生労働省 医務技監講演「がん対策加速化に向けて 2021」

厚生労働省 医務技監 福島 靖正 先生

14:15～14:30 前内閣総理大臣補佐官講演「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦 2021」

前内閣総理大臣補佐官、内閣官房健康・医療戦略室 前室長 和泉 洋人 先生

14:30～14:45 ノーベル賞級講演 I 「日本のがん医療革命最前線」

公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタル ディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授 中村 祐輔 先生

14:45～15:00 アジア代表講演

(リモート参加)

「生活習慣病の克服に向けた逆転の発想～マイクロバイオーマとは何か?～」

香港中文大学医学部 部長 フランシス・チャン 先生
(腸内細菌等を活用したマイクロバイオーマの世界的権威)

15:00～15:10 〈休憩〉

世界がん撲滅への戦略講演

15:10～15:25 EU代表講演「EU 及び世界のがん治療最前線」

(事前収録)

フランス・レオンベラルセンター 教授 ジャン＝イヴ・ブレイ 先生
(2019 欧州臨床腫瘍学会元会長・肉腫等の希少がん治療の世界的権威)

15:25～15:40 日本代表講演「がん撲滅に向けた肝胆膵治療最前線」

大阪市立大学大学院 医学研究科肝胆膵病態内科学 医学部長・教授 河田 則文 先生
(肝がん撲滅等を主導する世界的名医)

15:40～15:55 ノーベル賞級講演 II 「制御性T細胞によるがん予防薬開発最前線」

大阪大学 免疫学フロンティアセンター 特任教授 坂口 志文 先生

15:55 ~ 16:05 休憩(会場設営準備)

16:05 ~ 18:00

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 公開セカンドオピニオン® ~すべてのがんにリベンジを!~

司会：中見利男氏(世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 代表顧問、提唱者) 作家・ジャーナリスト

- 中尾 昭公 先生 (すい臓がん手術) 名古屋セントラル病院 院長
- 小川 和彦 先生 (カプセル型小線源治療・サイバーナイフ・IMRT 等) 大阪大学大学院医学系研究科 放射線治療学講座 教授
- 中山 貴寛 先生 (乳がん) 大阪国際がんセンター乳腺・内分泌外科 主任部長
- 河田 則文 先生 (肝臓がん撲滅等を主導する世界的名医) 大阪市立大学大学院 医学研究科肝胆膵病態内科学 医学部長・教授
- 藤原 俊義 先生 (食道がん・テロメライシンウイルス療法及びすい臓がん等の治療に向けた次世代テロメライシンウイルス療法の開発) (リモート参加) 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科消化器外科学 教授
- 佐野 圭二 先生 (肝胆膵外科) 帝京大学医学部 外科学講座 教授
- 大園 研 先生 (大腸がん、内視鏡手術の世界的権威) NTT 東日本関東病院消化管内科・内視鏡部 部長
- 山上 裕機 先生 (すい臓がん) 和歌山県立医科大学 外科学第2講座 教授・膵がんセンター長
- 上園 保仁 先生 (統合医療、漢方) 東京慈恵会医科大学 医学部疼痛制御研究講座 特任教授
元国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長
- 鎌田 正 先生 (重粒子線) 神奈川県立がんセンター 重粒子線治療センター長
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 元病院長
- 清松 知充 先生 (大腸腹膜播種) 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 大腸肛門外科 診療科長・下部消化管外科 医長

18:00 閉会の辞 「世界がん撲滅大阪宣言 2021」

高円宮妃殿下お言葉

本日は第1回がん撲滅サミットの開催が盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとかがっております。1981年より日本人の死因第1位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前1500年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前1400年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんを蟹(かに)を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り返していく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、がん撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感じます。お身内にがん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーがうまれます。

かかげておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急につくりあげていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考えます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場に立って考えるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社会的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療には皆がアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

(2015年6月9日開催の第1回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました)

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 開会式

ご来賓ご紹介

内閣総理大臣 (代読 大会長 原 丈人 様)	岸田 文雄 様
厚生労働大臣 (代理 厚生労働省医務技監 福島 靖正 様)	後藤 茂之 様
前内閣総理大臣補佐官 内閣官房健康・医療戦略室 前室長	和泉 洋人 様
大阪府知事	吉村 洋人 様
海外ゲストスピーカー代表 シカゴ大学 プレジジョン医療研究センター センター長・教授	マーク・J・ラティン 様 (リモート参加)
一般社団法人 大阪府医師会 会長	茂松 茂人 様
公益社団法人 関西経済連合会 会長	松本 正義 様
『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』特別顧問 元厚生労働 事務次官、元内閣官房政策参与	二川 一男 様
大阪大学 元学長 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授	岸本 忠三 様
公益財団法人 がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター 所長 シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授	中村 祐輔 様
大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授	坂口 志文 様
地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 総長	松浦 成昭 様
公立大学法人 大阪 理事長	西澤 良記 様
神戸大学 副学長	近藤 昭彦 様
『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』顧問 株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長	清水 美溥 様
『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』大会長 法務省 危機管理会社法制会議 議長 アライアンス・フォーラム財団 代表理事	原 丈人 様

〈順不同〉

大会長 ご挨拶



原 丈人

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』大会長
法務省 危機管理会社法制会議 議長
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 会長
(国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関)

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』大会長として一言ご挨拶申し上げます。

おかげ様で新型コロナウイルス禍の中で本年も本大会を開催することができました。

政府、経済界、医療界、そして各界の皆様、ご協賛いただいた皆様、関係者、患者の皆様にご心より御礼申し上げます。

今年に米国より世界的ながん医療の権威マーク・J・ラテイン教授、アジア代表としてマイクロバイオームの世界的権威・香港中文大学フランシス・チャン医学部長、EUより2019欧州臨床腫瘍学会会長のジャン＝イヴ・ブレイ教授、という世界のリーダーにもご参加をいただき、地球上の国々ががん撲滅に向けて連携することになった、歴史的かつ画期的な大会となります。

振り返れば2013年、私は「天寿を全うする直前まで健康であることを実現できる、世界最初の国に日本がなる」というビジョンを掲げました。さらには、2050年までには人類を苦しめている6,500種類の難病も、日本でなら治療の可能性があるという世界的な評価をつくりたいと考えています。

今、日本に必要なことはがん医療界に革新的な技術を導入し、その力によってがんを撲滅するという力強いエネルギーです。海外で標準治療になるのを待ってから、我が国が追随するというのでは壁は突破できません。自らが先頭に立って壁を突破しようと工夫しなければなりません。

主だったがんの撲滅を2030年までに実現し、世界で最初の「がん撲滅国家」となることを目指そうではありませんか。私はがん撲滅と並行して心臓病、脳、肝臓、肺などの病気治療技術や環境の向上、車椅子や失明からの解放など「大病をしても回復し寿命を全うする直前まで、すべての国民が健康に暮らせる世界最初の国をつくる」ことに向けて、これからも尽力していきたいと思えます。

日本のみならず世界の力を合わせて新しい力を生み出しましょう。免疫療法、ウイルス療法、より安全で効果的な放射線療法など次々と新しい技術を取り入れて、技術イノベーションを我が国がリードしていきましょう。そのためには、断固として制度イノベーションを押し進め、どんな圧力も抵抗勢力も恐れぬ。

それこそが中見利男氏が提唱する医療民主主義の確立です。でなければ世界をリードできるようながん撲滅を実現できる国には成れません。真のイノベーションを起こすことができません。

がん患者がそこにいる以上、我々は現状に満足して立ち止まることは許されません。「がん撲滅」という人類のニューフロンティアに対し、不可能を可能に変えるため共に前進しようではありませんか！

もう、がん撲滅は日本人だけの戦いではありません。人類全体の戦いにしなければなりません。「いのち輝く未来社会に向けて」という理念を掲げる2025年の大阪・関西万博の会場となる、ここ大阪の地で本日、私共はそれを実感していただける大会にして参ります。



岸田 文雄

内閣総理大臣

『世界がん撲滅サミット2021 in OSAKA』の開催、誠におめでとうございます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症との闘いが続く中で、医学の進歩に向け、皆様が日々取り組まれていることに心より敬意の念を表したいと思います。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、これからは、人生100年時代の到来を見据え、子どもから子育て世代、お年寄りまで、全ての方が支え合う、持続可能な全世代型社会保障の構築が大きな課題となっています。

政府では、これまでも、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸の実現に向けた取り組みを進めてまいりました。中でも、昭和56年から死因の首位を占めてきたがんについては、平成30年に第3期の「がん対策推進基本計画」を閣議決定し、①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、②患者本位のがん医療の実現、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築を全体目標に掲げ、取り組みを進めています。

また、近年、個々人に最適化した患者本位のがん医療として「がんゲノム医療」が注目され、本年6月に策定した成長戦略においても全ゲノム解析等の推進が盛り込まれています。全ゲノム解析等実行計画及びロードマップ2021を患者起点・患者還元原則の下、着実に推進し、これまで治療法がなかった患者に新たな個別化医療を提供するとともに、産官学の関係者が幅広く分析・活用できる体制整備を進めてまいります。

加えて、がんを患った方々が生きがいを感じながら働き続けられる社会を目指し、「働き方改革実行計画」に基づき企業の意識改革や両立を可能とする社内制度の整備促進や企業、医療機関と連携する両立支援コーディネーターによるトライアングル型のサポート体制の構築など、治療と仕事の両立に取り組んでいます。

今後とも、健康寿命の延伸、健康サービス産業の育成、経済社会の担い手増加の「3方良し」を目指し、民間活力を生かした「予防・健康づくり」の促進にも取り組んでまいります。

最後に、がんを克服し、活力ある社会を形成していくため、本会合がご参加の皆様にとって実り多きものとなることを祈念いたしまして、私のメッセージといたします。

厚生労働大臣 メッセージ



後藤 茂之

厚生労働大臣

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催、誠におめでとうございます。がん患者や御家族の皆様をはじめ、医療従事者や医学研究者及び企業の方々等がお集まりになり、本サミットが盛大に開催されることは素晴らしいことです。開催に御尽力された関係者の皆様に、深く敬意を表します。

我が国においては、生涯のうちに国民の約2人に1人ががんに罹患し、昭和56年から死因の第1位であり続け、現在もなお3人に1人ががんで亡くなっているなど、がんは国民の生命と健康にとって重大な問題です。

厚生労働省としては、平成30年3月に閣議決定した「第3期がん対策推進基本計画」に基づき、「がん予防」、「がん医療の充実」及び「がんと共生」を3本柱として、皆様が安心かつ納得できるがん医療や支援を受け、尊厳を持って自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現していきたいと考えております。

「がん予防」については、生活習慣の改善や、ウイルスや細菌の感染等の予防可能ながんのリスクの軽減、また、がん検診の受診率向上、がん検診の利益と不利益も踏まえた科学的根拠に基づくがん検診の推進や精度管理の更なる向上等に取り組んでまいります。

「がん医療の充実」については、がん診療連携拠点病院等を中心に、がん医療の均てん化を進め、がんゲノム医療等を推進してまいります。

「がんと共生」については、医療・福祉・介護・産業保健・就労支援分野等の関係者が連携し、効果的な医療・福祉サービスの提供や、就労支援等を行う仕組みの構築等に取り組んでまいります。

さらに、今年度より小児・AYA世代のがん患者等の妊よう性温存療法研究促進事業を開始しました。これは、がん治療により将来妊娠しにくくなる可能性がある方を対象に、卵子や精子の保存を支援する事業であり、若いがん患者等が希望をもって病氣と闘い、将来子どもを持つことができるよう支援する取り組みです。

最後に、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますの御発展、御健勝を祈念いたしまして、御祝いの言葉といたします。



吉村 洋文

大阪府知事

『世界がん撲滅サミット2021 in OSAKA』の開催を心よりお慶び申し上げます。

今回のサミットは、初めて大阪で開催されるとともに、これまでの日米に加えまして、新たに世界各地と連携して実施されることとなりました。この大阪で開催されます本サミットが、がん患者やそのご家族の方々をはじめ、日頃がんに関する医療や医学研究に取り組まれている皆様、そして各企業の方々等ご参加の皆様にとって、がん撲滅への挑戦の大きな契機となりますことを御期待申し上げます。また、開催に御尽力された実行委員会や事務局の皆様をはじめ、関係者の皆様に深く敬意を表します。

がんは、我が国における死因の第1位であり、府内においても年間約7万人の方々新たにがん罹患し、約2万6千人の方ががんで亡くなるなど、府民の生命、健康、生活にとって大きな脅威となっています。

大阪府では、平成30年3月に「第3期大阪府がん対策推進計画」を策定し、「がんの死亡率の減少」と「がん罹患率の減少」、「がん患者や家族の生活の質の確保」を目標に、様々な施策を展開しています。具体的には、がんの予防・早期発見に向けては、がん教育や検診の受診率向上等の取組みを進めています。

また、がん医療の充実に向けては、二次医療圏ごとに設置したがん診療ネットワーク協議会やがん診療拠点病院の機能強化を通じ、医療提供体制の充実を図るとともに、緩和ケアの普及啓発やがん診療拠点病院における提供体制の確保、人材育成のための体制構築など、その推進に向け、取り組んでいるところです。

さらに、患者支援の充実に向けては、がん相談支援センターの機能強化や就労支援などの取組みを行っているところであり、今後も引き続き、関係機関と連携しながら、がん対策を推進してまいります。

がん撲滅に向けた対策を社会全体で進めるために、まずは、がんについてよく知っていただくことが重要です。本サミットで交わされる活発なご議論を通じて、がん医療の最前線を知り、さらなる対策につなげていく機会となることを期待しております。

最後になりましたが、本サミットの盛會を心よりお祈り申し上げますとともに、本日お集まりの皆様のご健勝、ご多幸を祈念し、ご挨拶といたします。

大阪市長 メッセージ



松井 一郎

大阪市長

本日、『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』が開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

本サミットの開催にあたりご尽力されました関係者の皆様に深く敬意を表します。

また、大阪市では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げた2025年大阪・関西万博の成功に向け、2025年日本国際博覧会協会や国、大阪府等と連携しながら準備に取り組んでおり、そのようななか本サミットが大阪の地で開催されることに深く感謝申し上げます。

がんは、今や国民の2人に1人が生涯のうち1度は罹患すると言われていたほど身近な病気であり、本市におきましても長きにわたって死亡原因の第1位であることから、がん対策の推進は重要な課題となっています。

本市では、平成30年3月に策定した大阪市健康増進計画「すこやか大阪21（第2次後期）」におきまして、「全ての市民がすこやかで心豊かに生活できる活力あるまち・健康都市大阪の実現」をめざしており、がん対策としまして、がんの発症予防、がん検診の受診率向上、がんとの共生に関する取組みを推進しております。特にがん検診につきましては、市民のがん検診受診率50%を目標に掲げ、新型コロナウイルス感染症拡大のなか、効果的な取組みを模索しているところです。

新型コロナウイルス感染症拡大により、市民生活のみならず、社会、経済など多方面にわたって甚大な影響を及ぼす事態となっており予断を許さない状況が続いておりますが、本サミットで最新のがん予防・治療について知見を広げるとともに、開催の機運に乗じ、がんにより失われる命が1人でも少なくなるよう、がん対策により一層取り組んでまいります。

最後になりますが、本サミットが、お集まりの皆様方にとって実りあるものとなりますこと、そして、皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます、お祝いのことばといたします。

米国代表 メッセージ



マーク・J・ラテイン

レオン・O・ジェイコブソン 医学教授
プレジジョン医療研究センター センター長
シカゴ大学医学部総合がんセンター 臨床科学担当 副所長

今年の『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』に参加できることは誠に
光栄です。

岸田文雄首相をはじめとする日本の皆様には、このように快くお招きいた
きましたことを心より感謝申し上げます。

私は、大会長の原丈人氏、提唱者の中見利男氏、そして日本の医学界の皆様と協力して、世界全体で
「がん撲滅」という重要な問題に取り組むことを大変嬉しく思います。

今回の大会は、アライアンス・フォーラム財団が日本政府と共同で開催した『2019 ワールドアライアンス・
フォーラム in San Francisco』で行われた「日米がん撲滅共同宣言 2019」の勢いを加速させ、がん撲滅
を中心とした高齢化に伴う医療問題に取り組むものです。

そのフォーラムで私は、数多くの世界的な専門家と交流し、シカゴ大学医学部総合がんセンターで開発さ
れているがんに対する個別化治療薬の最新のイノベーションを皆様と共有する機会を得ました。がん撲滅サ
ミット提唱者の中見利男氏もその中の一人です。2019年にこのような有意義ながん撲滅サミットとのコラボ
レーションの機会を設けてくださった日本政府と原大会長に敬意を表します。

これまで米国と日本は、がん撲滅のために協力してきた長い歴史があります。私は、世界的に著名なが
ん研究者であり、遺伝学者でもある中村祐輔博士と、国際的な研究機関やシカゴ大学の同僚として共同研
究を行う機会に恵まれました。これらの共同研究を通じて、私たちはがんの薬理学において重要な発見を
することができました。このように、相互に利益をもたらし、がん医療の科学を前進させる国際的な協力関
係の例は数多くあります。

現在、世界は多くの新しい課題に直面していますが、中でも COVID-19 のパンデミックは、ワクチンや
治療法が急速に開発・承認されているにもかかわらず、1年半以上も続いています。

一方、がんの長期的な制御や根絶を成功させるためには新しい治療法の開発と実施が必要ですが、こ
れについては COVID-19 以上に様々な課題があります。

現在、大手・中小の製薬会社やバイオテクノロジー企業が開発中のがん治療薬は 1,300 種類を超えてい
ます。このような競争の激しい分野で、各企業が開発に伴うリスクを正当化しようとする、地球の平均気
温のように、新薬の価格は上昇し続けるでしょう。私たちは、医薬品開発と医薬品利用の効率を向上させ
るための戦略を開発しなければなりません。その一つが薬剤の低用量の使用に向けた実用化戦略です。

さもなければ、医薬品へのアクセスを、支払い能力のある少数の個人に限定することになるでしょう。

今年の『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』によって、私たちのコラボレーションが世界のがん治
療の向上にどのような影響を与えることができるのか、楽しみにしています。

このような世界との持続的な共同作業があって初めて私たちは、がんで苦しむことのない世界に向かって
進むことができます。

本日は本当におめでとうございます。

アジア代表 メッセージ



フランシス・チャン

香港中文大学医学部 部長、教授

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催誠におめでとうございます。

長年にわたり、がんと闘いに尽力されてきた専門家の皆さんに心より感謝申し上げます。また本日、皆さんに講演をさせていただけることは大変光栄です。

がんの予防と、健康的なライフスタイルが人間の生活に与えるプラスの影響について、一般の人々に継続的にプロモーションを行うことは実に重要です。

がんは、世界的に死因の第一位であることから、常に人類の関心事となっています。私たちは、究極の目標として、がん撲滅に向けて協力するために重要なイニシアチブをとって参ります。

この場をお借りして、大会長の原丈人氏、中村祐輔教授、提唱者の中見利男氏、和泉洋人氏、そして岸田文雄内閣総理大臣、大阪府、大阪市、関西経済連合会の皆様に、心からのお祝いと感謝の気持ちをお伝えします。

最後になりましたが、本大会と共に2025年の「大阪・関西万博」の成功を祈念いたします。

公益社団法人 日本医師会 会長 メッセージ



中川 俊男

公益社団法人 日本医師会 会長

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』が開催されるにあたり、日本医師会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

今年のテーマは「すべてのがんにリベンジを！ 今、大阪から世界に広がるがん撲滅への挑戦！」と伺っております。非常に重要なテーマであると認識しております。

新型コロナウイルス感染症については、わが国では9月末をもって4度目の緊急事態宣言が解除されましたが、第6波の襲来や今冬の新型コロナとインフルエンザの同時流行に備え、引き続き感染対策の徹底が重要です。

昨年1月以降のコロナ禍では、がん検診受診率の減少やがんの手術が延期される事例が報告されましたが、現在は徐々に回復しているとの報告もあります。今後のがんに罹る国民を減らすために、がん予防のための施策を一層充実させていく必要があります。そのためにも早期発見・早期治療に繋がるがん検診は重要です。令和元年度の国民生活基礎調査によると、がん検診受診率に関しては、男性の肺がん検診以外のがん検診については受診率50%の目標には到達しておらず、次回調査時にはより受診率の低下が危ぶまれます。

近年の革新的な技術開発により、がん医療は急速な進歩を遂げています。AIなどの情報技術やゲノム医療の進歩は、将来の病気のリスクを知ることや病気での早期発見、高い治療効果に大変期待されています。一方でゲノム情報は究極の個人情報とも言われており、その取り扱いに関しては、保護や管理に万全を期す必要があります。そのうえで、全ての国民が安心・安全にその恩恵を享受できるものとなることが求められます。

また、本会が進めているかかりつけ医機能の充実・強化をはかり、引き続き地域医療の支援に努めるとともに、誰でも、どこでも、いつでも安心して平等に医療を受けられる公的医療保険制度の下での、国民皆保険を守り、国民の皆さまに、より良い医療を提供するため、尽力していく所存であります。

結びに、本集会の開催にあたり、ご尽力されました関係者各位に深く敬意を表し、本サミットが有意義なものとなりますことを祈念いたします。

一般社団法人 日本経済団体連合会 メッセージ



畑中 好彦

一般社団法人 日本経済団体連合会 審議委員会 副議長
アステラス製薬株式会社 代表取締役会長

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』が開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。また、当サミット開催にご尽力されました関係者の皆様に心から敬意を表します。

がん対策にはがんの早期発見・早期治療が重要な取り組みの一つとなります。「新型コロナウイルス感染症によるがん診療及びがん検診などへの影響について(中間報告)」*によると、2019年度と比較した20年度の住民検診におけるがん検診受診者数は、8～9割ほどに減少しており、がんの早期発見・早期治療への影響が懸念される状況です。ただ、この減少は主に緊急事態宣言が発令された20年4、5月の検診受診者数の大幅な減少に起因しており、6月以降は19年度並みまで回復したという明るい兆しも示されています。当サミットの目標の一部にがんの早期発見実施の重要性が謳われていますが、こうした「がん死をゼロに近づけようとする、たゆまない努力」が重要だと考えております。

経団連は、多様な価値の包摂と価値の協創によって「サステイナブルな資本主義」を確立する必要性を掲げ、一人ひとりが未来へ向けたアクションを実行していくことを呼びかける「新成長戦略」を昨年11月に取りまとめました。「新成長戦略」には実現したい未来像の1つとして、「DXを通じた新たな成長」を「生活者との価値協創」と共に描いており、ヘルスケア分野に必要なアクションとして「個人起点のヘルスケアの推進」、「デジタルを活用した医療介護の普及」、「データドリブンのヘルスケアサービスの開発」の3点が記載されています。がんに対しても、一人ひとりのがん患者さんを起点として、データに基づいた医療サービスを提供するためのアクションが必要だと考えています。

がん撲滅を目指すには、患者さんとそのご家族、医療界のみならず、産学官を含む全てのステークホルダーが垣根なく関わり、国際的な連携・協力を推進すること、およびこれらマルチステークホルダーそれぞれのニーズを充足しながら価値を協創していく取り組みが重要となります。私ども産業界も、ステークホルダーの一員としてがん撲滅に向けたアクションに参画すると共に、イノベーションを絶えず創出し、社会に価値を還元すべく挑戦を続けて参ります。

当サミットが、がんと向き合う患者さんとそのご家族の希望につながるとともに、ご参加の皆様にとって実りある素晴らしい場となること、さらには「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される2025年の大阪・関西万博の成功にもつながりますよう祈念しメッセージいたします。

*出典：「第33回がん検診のあり方に関する検討会（令和3年8月5日）」資料4

公益社団法人 関西経済連合会 会長 メッセージ



松本 正義

公益社団法人 関西経済連合会 会長

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催を心よりお慶び申し上げます。

2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする「大阪・関西万博」の開催を控える、ここ大阪において、オールジャパンでのがん撲滅に乗り出す本サミットが開催されることを大変嬉しく思います。また、日々、がんの治療・研究に尽力されている皆さま、本サミットの開催にご尽力賜りました関係の皆さまに心より感謝と敬意を表します。

がんは、わが国の死因の第1位であり、がんの撲滅は、多くの国民が強く願っていることであります。関西には、各地にがん治療の先端的な治療を提供する医療機関が集積しております。また、関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）、神戸医療産業都市をはじめとする研究開発拠点では、がんを克服するための先進医療の確立に向けた研究開発が日々行われております。さらに創薬分野などの研究開発を支える大型放射光施設（SPring-8）など、世界最先端の研究機関が立地しています。経済界では、こうした取り組みを推進すべく、国の特区制度などを活用し、関西における研究体制の拡充に向けて、政府への働きかけなどを行って参りました。まさに、関西はがんと闘うための基盤を産学官の連携のもと構築してきた地域といえます。

関経連が昨年策定した「ファーストペンギンの心意気」をコンセプトとする、「関西ビジョン2030」では、「心身ともに健やかになる活力ある地域づくり」を重点分野の一つに位置づけております。当会では、2025年の「大阪・関西万博」をマイルストーンにし、健康・医療分野における産学官連携のプラットフォームである「関西健康・医療創生会議」等と連携し、データ利活用の推進や、医学・医療の発展に向けて貢献して参りたいと考えております。

最後に本サミットがご参加の皆さまにとって実り多きものとなることを期待するとともに、益々のご健勝とご多幸を衷心より祈念し、私からのメッセージとさせていただきます。

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 顧問 メッセージ



清水 美溥

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』顧問
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長

第7回を迎える『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催、誠におめでとうございます。

このサミットにかける中見先生の情熱には敬服すると同時に頭が下がる思いがします。

私は、実行委員会最高顧問の牧野徹先生のご紹介で、第3回から手伝わせていただいておりますが、年々内容が充実してきており、次の開催が待ち遠しく思われるようになりました。これも中見先生のこの大会にかける情熱とご尽力のお陰だと敬服しております。

近年はがん治療の研究が進み、治療の選択肢が増え、がんは治る病気になってきました。しかし、まだまだです。日本人の二人に一人ががんに侵され、三人に一人ががんで亡くなっています。我々国民にとってがん撲滅は大変重要な課題であることは間違いありません。

世界中でがん治療の研究開発や治療法の改善も日々進められておりますが、そのピッチを更にスピードアップし、より効果が上がるようにし、一日も早くがんを撲滅できる日がくるようにする一つのキッカケとするのが、この「がん撲滅サミット」の意義だと思っております。

医療関係者や製薬会社の方々、関係省庁の方々だけではなく、我々一般庶民もがん撲滅に何か協力できるのかを考え行動する必要があるという思いにさせてくれるのが、この「がん撲滅サミット」だと思います。関係される方々に頑張って下さいと言うだけでなく、我々も何ができるかを考え、行動していきたいと思っております。

これからも、是非、がん撲滅という悲願を達成するために、皆で力を合わせていきたいものです。

大阪府医師協同組合 理事長メッセージ



小谷 泰

大阪府医師協同組合 理事長

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催、誠にありがとうございます。

今回のサミットが、大阪で開催されることに対し、大変嬉しく思っております。

大阪は歴史적으로見ても医療と密接な関係がある土地です。

緒方洪庵が1838(天保9)年に現在の大阪市中央区で開業した後、種痘を広め天然痘の予防に尽力したことは広く知られており、今日の予防医学と公衆衛生学につながる先駆的な業績であったといえます。

また、2025年には「大阪・関西万博」が開催されます。この万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、人類の可能性を確認し合い、新たな「いのち」のありようや社会のかたちを検証し提案する場と位置付けられています。

私たちは、2019年12月から発生した新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、医療が崩壊寸前の危機的状況に直面したことで、改めて「いのち」の大切さを痛感させられることになりました。私が所属する地区の医師会でも、一時期ではありましたが住民健診や、がん検診の中止が通達され、大変困惑いたしました。コロナ禍の報道では、新型コロナウイルス感染者ばかりが取り沙汰される状況でしたが、その他にも「いのち」に関わる重大な病気はあり、特にがんと闘っている患者さんのことが気にかかりました。新型コロナウイルスの感染を恐れるあまり、必要な治療まで停滞してしまうと、がんの進行を招く恐れがあったからです。

ようやく、日常診療は落ち着きを取り戻し、闘病中のがん患者さんとも以前のように会話ができるようになり、ほっと胸をなでおろしているところです。

さて、私が理事長を務める大阪府医師協同組合は、大阪府医師会の外部団体として1954(昭和29)年2月に医師の医師による医師のための組合として設立されました。現在、大阪府下の開業医5,600名と勤務医7,000名に加入していただいております。

当組合の役割は、地域医療の最前線で診療する医師に対し、「医業の安定と暮らしの充実を支援する」ことであり、言い換えれば医師を通じて社会に貢献することです。

病医院に対し、がんの発見に使用される装置や治療機器の提案と斡旋販売も行っています。府民や患者さんと直接接する機会はありませんが、今後とも府民の健康、介護、福祉に携わる医師を応援し続けると共に、医療の発展と豊かで健やかな社会づくりに貢献するべく精進してまいります。

がんと闘う患者さんご家族にとり、全てのがんが撲滅され、希望が未来に繋がりますことを祈念申し上げます。

本サミットの開催にあたり、関係者各位に心より感謝申し上げます。

香港中文大学 総長 メッセージ



ロッキー・トゥアン

香港中文大学 (The Chinese University of Hong Kong)
総長 兼 副学長

香港中文大学(CUHK)を代表して、『世界がん撲滅サミット2021 in OSAKA』の開催に、心からのお祝いと強い支持を表明します。

がんは、世界人口の約20%が罹患し、10%以上がこの病気に倒れるという、今や大きな公共問題であり続けています。がんと闘うためには、世界的に協調した対応が必要であり、このWCES(世界がん撲滅サミット)は各国研究者や医療者を含めた人々のコミュニケーションと国際協力を促進するための効果的なプラットフォームとなります。

現在、香港中文大学は、がんとの戦いの最前線に立ち、世界トップレベルの臨床腫瘍学科は、様々な形態の腫瘍や悪性腫瘍、特に肺癌や上咽頭癌に対する新しい治療法の開発や、CAR-T技術の応用をリードしています。

世界ランキング40位以内に位置している香港中文大学の中でも、特に医学部は次世代の思いやりのある創造的な医師と生物医学者の育成に力を注いでいます。

本日ご来場された皆様、『世界がん撲滅サミット2021 in OSAKA』を通じて、私共と力を合わせてがん撲滅の戦いに勝利しましょう！

学校法人 慈恵大学 理事長 メッセージ



栗原 敏

学校法人 慈恵大学 理事長

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催を大変嬉しく思います。これまで、がん撲滅を目指して『日米がん撲滅サミット』が開催されてきましたが、今年は、世界的な視野に立ち、人類が一丸となってがん撲滅を目指すことになりました。これまでの活動が社会的に認知され、また、この取り組みが多くの方の賛同を得た結果、人類が協力してがん撲滅を目指す『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』が開催されることになり、これも、関係各位のご尽力の賜物と思います。

現在、世界は新型コロナウイルス感染症の予防と治療を最大の課題として取り組んでいます。日本では、感染者が激減し第5波が収束に向かっていますが、感染後、後遺症に悩まされる方が増えており、今後も油断できません。感染症は、抗生剤の出現によって、一時期、軽視されてきたように思います。しかし、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験して、感染症に対する認識を新たにさせられています。私たちは、疾病の流行に惑わされることなく、普段から、重要な疾病の予防と対処法を怠りなく考えておく必要があると感じました。

がんは伝染性疾患ではありませんが、日本人の2人に1人はがんに罹患すると言われていています。世界に稀に見る高齢社会を迎えている日本は、これからもがんの患者さんは増えることでしょう。がんは特殊な疾患ではなく、誰でもが罹患する可能性がある疾患になりつつあります。医学の進歩によって、がんの原因は遺伝子レベルで解明されるようになり、分子標的薬の開発によって、的確な治療が行われるようになったがんもあります。一部のがんを除けば、多くの方ががんに罹患しても、適切な治療を受けながら社会生活を営み、がんと共存できる時代を迎えています。

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』では、がんに関する最新の様々な情報が提供されることと思います。がんに関する最新の情報を多くの方が共有して、がんの予防、診断、治療、そしてがんとの共存を考える良い機会になることを願っています。

神戸大学 副学長 メッセージ



近藤 昭彦

神戸大学 副学長

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催をこころよりお慶び申し上げます。

また本サミットの開催にご尽力された関係者の皆様に深く敬意を表します。

本年度のテーマは「すべてのがんにリベンジを！ 今、大阪から世界に広がるがん撲滅への挑戦！」であり、非常に重要なテーマとなっています。がんは日本人の死因の第1位であり国民の約2人に1人ががんに罹患する時代です。一方、がんに対するサイエンスも近年目覚ましく進展し、それに伴いがん医療に対する新たな治療法や診断技術も日々進化しています。

私がこれまで取り組んできた応用微生物の研究においても、様々な知見が蓄積されてきており、私たちの身近な微生物が発がんに関与するという知見やさらにはがん治療への適応の可能性も高まってきました。私たちの消化管内には約100兆個・1,000種類を超える微生物が存在し腸内細菌叢を形成していることが知られていますが、がんを含む様々な疾患ではこの腸内細菌叢の多様化が減少(dysbiosis)していることがわかってきています。また2015年には腸内細菌の違いによって、がん免疫療法の効果が変わるというマウス実験結果が報告され、「腸内細菌—腫瘍—免疫細胞」という3者の関連が大いに注目されています。2020年日米がん撲滅サミットに始まった「ヒポクラテス・プロジェクト」の取り組みにおいてもこの腸管免疫と微生物に注目した研究活動を推進し、がん予防・治療につなげていくことが掲げられています。

我々日本人は古来より、様々な微生物を利用した発酵技術を生み出し、暮らしに役立つ様々な物質を作り出してきました。最近では、切らないゲノム編集技術やスマートセル技術などによりスーパーエリート微生物を創製することも可能となっています。我々の身近なこれら微生物を大いに活用することにより、がんの予防・治療・診断に貢献し、がん克服から撲滅に向かってさらに前進することが期待されます。またより多く若い研究者も含めた様々な立場の方々がこれらの挑戦に取り組み、産官学一体となって本サミットの目標であるがん撲滅の実現にむけて前進されることを期待しています。

最後になりますが、本サミットが、がん患者の皆様とご家族、医療関係者とその支援者、さらにはがん研究者の方々にとって実りあるものとなることを祈念して、メッセージとさせていただきます。



岸本 忠三

元 大阪大学 総長
大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授

本日は『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催誠におめでとうございます。

本大会はがん撲滅を目指すために 2015 年に産声をあげられたということをお伺いしておりますが、もともとは 2013 年 9 月より提唱者の中見利男氏がオールジャパンでがん撲滅を目指そうと第一歩を踏み出されたことから始まったムーブメントであると存じます。

私は日本の医療機関、拠点病院こそ新しい治療を生み出す能力と責務があるのだ、ということを大阪大学総長時代より提唱して参りましたが、オールジャパンでのがん撲滅は、こうした医療機関の存在なくして達成できないと考えております。

私が発見したインターロイキン-6 (IL-6) は多彩な機能を発揮しますが、感染症などに反応して肝細胞に急性期たんぱく質を作らせることや、関節炎など免疫による炎症反応の引き金となる分子の一つです。いくつかの癌の増殖を促進することも知られています。

これを応用すれば、がん治療をはじめ感染症にも応用ができるわけですが、米国 FDA、WHO が今回新型コロナウイルス治療薬として緊急承認した『アクテムラ』も、この IL-6 の働きを抑え、サイトカインストームと呼ばれる急性期のショック状態を回復させる治療薬なのです。

こうした研究に私が打ち込めたのも大阪大学の自由な気風と、新しい治療を生み出していこうという情熱があふれる土壌があったからこそです。

ところが、今や新しいものを生み出そうという気概が日本の医療から失われつつあります。私は今回の『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』が契機となって再び大阪に医療ルネッサンスの風が呼び起され、健康・医療都市として復活する号砲になると確信しております。同時に本サミットによって 2025 年の大阪・関西万博に向けて、革新的かつ未来につながる医療の道が切り拓かれることを、心より祈念しております。

ノーベル賞候補 メッセージ



中村 祐輔

公益財団法人 がん研究会がんプレシジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授
2020年『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』受賞

がん撲滅サミットが日米がん撲滅サミットとなり、今年は世界がん撲滅サミットに発展して開催されます。規模が拡大していくことはもちろん喜ばしいことですが、それにも増して喜ばしいことは、これまでの東京開催から、私のふるさとの大阪で開催されることです。私は大阪で生まれ、大阪で育ち、31歳まで大阪で生活していました。大阪大学、大阪府立病院、市立堺病院で医療を学んだ後、大阪を離れて数十年の歳月が流れましたが、ふるさとは何歳になっても恋しいものです。

大阪の皆さん、そして、がんを撲滅したいと願っている皆さん、一緒に盛り上げましょう。

今年は、これまでは困難であると思われていた壁でも、一つの技術革新で簡単に乗り越えられることが、コロナ感染症のmRNAワクチンという形で示された年です。多くの日本の専門家と称する人たちができないとコメントしていた短期間でのワクチン開発を、新しい技術が可能にしたことを、われわれは目の当たりにしました。そして、ビオンテック・ファイザー連合軍のビオンテック社とモデルナ社は、これからのがん撲滅を目指しているわれわれの仲間なのです。多くの方はご存じないと思いますが、2017年にビオンテック社はNature誌に「Personalized RNA mutanome vaccines mobilize poly-specific therapeutic immunity against cancer」とタイトルの論文を発表しました。タイトルからはわかりにくいのですが、実はがんのネオアンチゲンを、mRNAを利用して作らせて、がん患者の免疫を高めることを証明した論文なのです。昨年も紹介したように、私たちは、ペプチドと呼んでいるタンパク質の一部を合成する方法でネオアンチゲン療法に取り組んでいます。ペプチドとmRNAという方法は異なりますが、ビオンテック社はネオアンチゲン療法を目指していた競争相手でした。そして、今では、ネオアンチゲンを利用した治療は、米中を中心に90以上の臨床試験で検証されつつあります。

技術革新で大きな壁を乗り越えることができる可能性をmRNAワクチンは証明しましたが、これは治らないと考えられているがんも、技術の進歩で直すことができる可能性を示したことでもあります。そして、私の旧友のジョンズホプキンス大学のボーゲルシュタイン教授のグループは、抗体を利用したT細胞療法に取り組んでいます。

大阪では、30年以上にわたる技術革新が、病気の原因を見つけ、治らない病気を治せるようにしてきた歴史を振り返ると共に、がんを撲滅することが夢ではないことをお話したいと思っています。

皆さん、夢が現実になることを願って、共に闘いましょう！



坂口 志文

大阪大学免疫学フロンティア研究センター・実験免疫学 特任教授

新しいがん免疫療法に向けて

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催誠におめでとうございます。

がん免疫療法は、現在、新しい時代を迎えようとしています。ここ10年、抗CTLA-4抗体、抗PD-1抗体など、免疫共刺激分子もしくは免疫抑制分子シグナルを調節し抗腫瘍免疫応答を賦活化、強化するがん免疫療法の有効性が示されてきました。今後も、難治性がんに対しても効果的ながん免疫療法が開発され、がん免疫療法は、外科的切除、放射線療法、化学療法に続く第4のがん治療法として確立されていくでしょう。

一方、現在免疫チェックポイント阻害抗体は主として進行がんに使われていますが、将来に向けては、初期がんに対しても使える効果的ながん免疫療法を開発する必要があります。がん免疫療法では、がん細胞を特異的に攻撃するリンパ球が、がん抗原に対して特異的に感作され、活性化、増殖、そしてメモリーを獲得し、がん細胞を持続的に攻撃するのみならず、体内に隠れている、あるいは転移したがん細胞をも攻撃してくれることが期待されます。そのような強いがん免疫応答を惹起するためには、むしろ、体内にがんが見つかり、がんを取り除く前、すなわち、がん抗原が体内に存在する時点から免疫療法を始める方が効果的で、がんの転移の抑制、予防にもつながります。遺伝的にがんを発症しやすい人にも発症予防に使えるでしょう。

このような初期免疫療法の開発には解決すべきいくつかの課題があります。例えば、どのようながんに対しても有効な汎用性、また高い安全性が要求されます。経口での服薬が可能な簡便性も重要です。医療経済的には安価である必要があります。がん撲滅に向けて、「がんと診断されたその日から始める免疫療法」が実現できるよう研究を進めたいと思います。

本日のご盛会を心より期待しております。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長 メッセージ



國土 典宏

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』副大会長
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長

新型コロナウイルス感染症流行の第5波により、わが国は医療崩壊の危機にまで追い込まれましたが、秋に入りワクチン接種の普及とともに流行が収まりつつあります。新たな抗体療法や抗ウイルス薬も登場しようとしており、国産ワクチン開発も進み、希望の光も見えてきました。パンデミックが始まって2年近く、我々はいろいろな我慢を強いられ多くのことを学び今、ポストコロナの時代に向けて準備を始めています。一方、昨年の流行第一波の頃からがんを含む新型コロナ以外の疾患に対する診療の萎縮や遅れが心配されてきました。実際、国民の通院控え、がん健診の遅れなどで進行してからのがん診断が増えているのではないかと、医療者として感じています。流行の中でもがんの高度医療を担うべき多くの特定機能病院や中核病院は、病棟・スタッフのやりくりをしながら、新型コロナウイルス感染症重症患者の高度集中医療とがんの治療を両立させてきました。

世界がん撲滅サミットは今年で通算第7回となりますが、首都圏とともにパンデミックの影響を最も受けた大阪で、本会を初めて開催することは大変意義深いと考えます。本サミットは作家・ジャーナリストの中見利男氏が、がん患者死亡率を将来的にゼロにしていくために、医療をはじめ、政府、官僚、経団連などの各界に呼びかけて「オールジャパンでがん撲滅に向けて立ち上がろう」と提唱したことから始まった、がん撲滅ムーブメントです。前々回から前内閣府参与の原文人様を大会長に迎え、さらにグローバルな視点からがん撲滅を考えるサミットになりました。前は「日米がん撲滅サミット」でしたが、今回はEU代表講演も加え、まさに「世界がん撲滅サミット」の名にふさわしい構成となっています。

恒例となりました後半の公開セカンドオピニオンでは、多くのがん治療のエキスパートにご登壇いただき、会場の皆様からの質問に答えていただくこととなります。昨年の第6回は多くの皆様の来場をいただき成功裏に終了いたしました。今回もそれに劣らず素晴らしい『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』になるものと実行委員会の一人として確信しております。よろしく申し上げます。

公益財団法人 日本対がん協会 会長 メッセージ



垣添 忠生

公益財団法人日本対がん協会 会長・国立がんセンター 名誉総長

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催、誠におめでとうございます。

がんは高齢者に多い病気ですが、日本は超高齢社会に急速に移行しつつあり、今年間に100万人が罹患する時代を迎えました。

また、国民の2人に1人ががんに罹患する時代ですから、がんは誰にとっても無縁の病気とはいえない。私どもはそうした時代に生きています。

がんの5年生存率は、私が医師となった50年以上前には40%以下だったのですが、医療の進歩とともに上昇し、今や65%を越えています。もう直70%を超えるでしょう。そのため新しい問題として「がんと就労」つまり働きながらがんに向き合う、といった課題も生じてきました。つまり、がんは治る病気変わってきました。それなのに依然として世の中には「がん＝死」というイメージが氾濫しています。

そのため、がんと診断されると、多くの人々が「頭が真っ白になった」といい、治療中もいつ再発転移するかと怯え、疎外感、孤独感に苦しんでいます。

日本対がん協会では、この状態を何とかしようと、2017年6月に「がんサバイバークラブ」を立ち上げ、サバイバー支援を続けています。加えて、「がんで苦しむ人や、がんで悲しむ人をなくしたい」を念願して、がん予防・がん検診の推進、がん患者・家族の支援、正しい情報の提供に取り組んでいます。

がんのゲノム・エピゲノム情報が実診療に取り入れられ、新しい免疫チェックポイント阻害剤やCAR-T細胞療法などが保険診療に組み込まれるなど、がん医療は日々進歩しています。

10年先には、「がんは誰でもかかる可能性のある普通の病気の一つ」とそのイメージが変われば、がん患者、サバイバーに対する偏見や差別は自然に消えていき、がんを隠すことなくがん患者、サバイバーも明るく生きることができるようになるでしょう。昨今のコロナ禍によってがん検診は激減し、医療従事者、医療機関の疲弊は目を覆います。こんな事態に敗けないためにも「がん撲滅サミット」は、関係者の衆知を集めるという意味で、極めて重要です。

本サミットの大成功を心より祈念しながらメッセージとさせていただきます。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長 メッセージ



嘉山 孝正

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長
東京脳神経センター 所長
山形大学医学部 参与

本日は『世界がんサミット2021 in OSAKA』の開催誠におめでとうございます。

昨年の初頭から地球上に発現したコロナ禍は本年もPCR検査陽性数を指標とし、その波は上下しながら継続している。今夏、東京都のPCR検査陽性者は一日当たりの新患者数で3,000名を超し、この世の終わりが来るのではないかのようなメディアでの報道ぶりであった。今でもメディアは毎日大きく取り扱い、国民の不安は収まらない。今回の感染症が始まった時に、先行する中国等海外の医学知識から日本の医療者に解っていたことは以下の3点であった。

① 呼吸器系ウイルス感染であるから、細菌感染と異なり自己移動はしないので、呼気とともに排出される。その際ウイルスは呼気、口腔内で唾液と混じり排出される。飛沫感染であるので、「つばの飛ばし合いをしない」が感染予防策である。② 重症度の情報としては、無症状者、軽症者が約8割。死亡率は低い。「無症状者、軽症者は把握できない」死亡率が高ければ死亡でウイルスは伝搬しなくなる。無症状、軽症の感染者が「つばの飛ばし合い」をする場合が厄介である。③ 感染後、体内での免疫反応は2週以内である。「2週間の隔離で済む」。

従って、昨年度はメディアに出すような新しいことは何も解っていなかったのである。唯一、「感染を予防するには感染者の唾等を飛ばし合わない。飛沫感染を防ぐ」に尽きたのである。

なぜなら新型コロナ感染症が東京で蔓延した時から朝夕の東京メトロ、山手線では乗客乗車率は密であったが、クラスターは殆ど出ていない。従って、現実可能ではないのでやっではないが、「密、人流の阻止」は感染予防には直接関与せず、「飛沫の飛び合い」が直接的に感染に関与することを強調すればよかった。その経過でワクチンが徐々に普及すれば一般の風邪として扱えたのではないかと考えている。色々な高名な学者も種々の仮説を述べたが、1年半たって本当だったものはなく、ほとんどの言説が消えていった。そして、現在でもその予防策は変わっていないのである。

このことを、防ぐには感染症の専門家ではなく感染予防の現場の人間で俯瞰的な考えができる人間をリーダーにすべきであった。残念ながら米国にはこのような組織、ヒトがいて、また、そのような人を採用する人もいる。

「がん医療」でも情報の質、伝達法の扱いで患者さんが適切な医療を受ける機会を失ったり、きちんとしたがん医療を受けられない事態が生じる可能性はおおいにある。その意味でも、中見、二川両先生が大変に苦勞をされて毎年本サミットを開催されていることに敬服である。今回は、コロナ禍を通じて、本サミットの意義：情報の適切な開示という重要な役割を再評価する事物を記した。

大阪での初開催となる『世界がん撲滅サミット2021 in OSAKA』がぜひとも成功することを期待して祈念しております。

大阪国際がんセンター 総長 メッセージ



松浦 成昭

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長

がん撲滅に向けて大阪から世界に発信！

がん撲滅サミットは医療者だけではなく、政・財・官、そして患者・家族を始めとした市民の皆様もいっしょになって、がんの撲滅を目的として行われるものです。患者さんの視点に立って、様々な分野の最前線で臨床・研究に取り組んでいる医療者が集まり、市民の方々と本音で意見交換をすることが最大の特徴です。日本人の2人に1人ががんにかかり、がんは国民病と言うべき時代になっていますので、オールジャパンとして始まりましたが、視野を大きく世界に広げて挑戦するということで、世界がん撲滅サミットへと発展を遂げました。誰もがこのサミットに結集し、実のある議論をすることにより、がんの撲滅に向けた大きな一歩になることを期待しています。

がんの医療は大きく変貌しました。「不治の病」と言われ、治療成績は不良であった時代からすると、がんの診断も治療も顕著な進歩が見られ、治療成績は全体として大きく改善しました。しかし、依然として高度進行がん・再発がんに対する治療手段は限られており、延命期間は延びましたが、最終的には不幸な転帰をとげることが多く、さらなる努力が必要です。がん医療の進歩とともに、患者さんが普通の生活を送るための支援を行うことも重視されるようになりました。がんが治ることはもちろん大切ですが、治ればそれでよいというものではなく、QOLを十分に保って、毎日の生活を送ることも同じくらい大事です。様々な支援を行うとともに、できるだけ負担の少ない治療法を考えていかななくてはなりません。

今回は初めて大阪での開催と言うことで関西在住の立場から大変喜んでいますが、がんの統計を見ると、関西地区はがんで亡くなる人の多い地域です。1990年代から2004年まで、日本全国の都道府県の中で大阪府はがん死亡者の割合が一番多い所でした。お隣の兵庫県や和歌山県も悪く、関西地域は東北、北九州と並んで、なぜかがんで亡くなる人の多い地域です。2005年くらいから少しずつ改善してきて最下位の状況は脱しましたが、今でも後ろから10番目くらいの状況で、まだまだがんばらないといけません。

ところで、大阪と言うと何を思い浮かべられますか？「お笑い」「たこ焼き」といったよく言えば庶民的、少し悪く言うとB級・低俗なことがまず頭に浮かぶ人が多いかもしれません。しかし、大阪はかつては医療の先進地域でした。最も歴史ある御三家の田辺・武田・藤沢製薬を始め多くの製薬会社は、江戸時代17世紀に大阪で発祥しました。また、緒方洪庵が適塾を作って、若い医師を育成したのも19世紀の大阪でした。緒方洪庵は日本に種痘を広めましたが、当時としては大変チャレンジングなことであったと思います。大阪にはチャレンジ精神がありますので、東京の皆さんの叡智といっしょになってがん撲滅に努めたいと思います。

がん撲滅サミットは第一線のがん研究者・臨床家が集いますが、主役は一般市民の皆様です。このサミットでがん医療の最前線を知るとともに、十分に議論し意見交換することが大切です。受け身ではなく、攻めの姿勢・積極的な意気込みで皆の叡智を結集することが、名前の通りがんの撲滅をめざすことにつながります。一人でも多くの人の積極的な参加をお待ちしています。

大阪大学 名誉教授 メッセージ



杉山 治夫

大阪大学大学院医学系研究科 特任教授
大阪大学 名誉教授

がん撲滅サミットも早くも第7回目を迎えるまでになり、大会長の原文人会長、提唱者・ファウンダーの中見利男代表顧問の大変な御尽力の賜物と存じます。

がんは、人類を最も恐怖に陥らせる病気であると思います。がんは、がんと診断されましたなら、だれしものが、死を意識するほどの極めて恐ろしい病気であると思います。医学の急速な進歩により、近年、多くのがん治療法が開発されてきましたが、これらの最新がん治療法をもってしましても、一部のがん患者さんしか救えず、今もって、がんは極めて恐ろしい病気であり続けております。この極めて恐ろしいがんを撲滅することは、人類の悲願であります。

がんの治療法は、長きにわたり、手術療法、抗がん剤療法、放射線療法が3大がん治療法として、がん治療のすべてを担ってきましたが、近年の免疫チェックポイント阻害剤の開発を発端にして、免疫療法が第4のがん治療法として確固たるものになりました。手術療法も、絶え間ない優れた外科医の研究や手術ロボットの介助により、格段に発展いたしました。抗がん剤療法は、がんのゲノム解析の成果から数限りない分子標的薬が開発されてきました。最近では、開発が大変困難でありましたが、多くの固形癌で、がんの悪性化に働いています K-ras に対する分子標的薬も開発されました。放射線療法では、強度変調放射線治療が開発され、正常組織への照射を大きく減じ、癌への集中照射が可能になりました。免疫療法では、免疫チェックポイント阻害剤が数々の固形癌に適用可能になり、さらに、高度サテライト不安定性があれば、癌腫に関係なく適用できるという、画期的な適用基準が実用化されました。また、画期的な CAR (キメラ抗原受容体) -T 細胞療法が、岸本忠三先生のアクテムラの使用により、安全に行えるようになり、一般的な治療法になってきました。藤堂具紀先生が開発されましたウイルス療法 G47 Δ も承認されました。さらに、ペプチドがんワクチンの開発も進み、いずれ、承認され保険適用されるものと思われまます。

このように、幸運なことに、がんの治療法は、他の病気に比し、きわめて多数あります。また、いろいろな治療法を同時に、あるいは、経時的に組み合わせることができますので、結果として、がん治療の選択肢は、極めて多く、多様性に富んでおります。そのため、どの治療手段を、いつ、どのように使うかが（戦争において、陸、海、空の各軍をどう使うかに似ています）、非常に重要で、また非常に難しいことであり、これが生死を分けると言っても過言でないと思います。

本サミットでは、がん治療の多くの選択肢が示され、がん患者さんの1人1人の最適の治療法は何かについての多くの示唆が得られるものと期待申し上げております。



蒲島 郁夫

熊本県知事

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』の開催、誠におめでとうございます。

これまで、世界がん撲滅サミット実行委員の皆様には、平成 28 年熊本地震及び令和 2 年 7 月豪雨からの復旧・復興、更には新型コロナウイルス感染症の医療支援として、温かい御寄附をいただいておりますことに、県民を代表して心から感謝申し上げます。

本県では、熊本地震、令和 2 年 7 月豪雨からの創造的復興が着実に進展する中、全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症が広がりを見せ、これまでに経験したことのないほど、県民生活や経済活動など、幅広い分野で甚大な影響を及ぼしました。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、本県では、感染拡大防止と県民生活や県経済の回復のベストバランスの追求に全力で取り組んできました。このように本県は今、かつてない大逆境の中にありますが、「逆境の中にこそ夢がある」という私の信念のもと、コロナ禍を克服し、必ずや 2 つの災害からの創造的復興を成し遂げ、熊本の更なる発展に全力を尽くして参ります。

さて、がんは約 2 人に 1 人の方がかかる病気と言われていています。私自身も 5 年前に早期の胃がんが見つかり、内視鏡手術を受けた経験があります。がんは特別な病気ではないことを再認識するとともに、改めて早期発見の重要性を実感しました。

本県では、平成 30 年に「第 3 次熊本県がん対策推進計画」を策定し、①がんを知りがんを予防する、②適切な医療を受けられる体制を充実させる、③がんになっても自分らしく生きることのできる社会を実現する、の 3 つの目標に向かってがん対策の充実に取り組んでおります。特に本県のがん検診受診率は、全国平均より高く、男性の胃がん、肺がん、大腸がん、女性の肺がん、乳がんにおいて、国の目標値である 50% を越えています。今後も、国及び県が指定する 20 の拠点病院と連携し、引き続き、県全体でがん医療水準の向上を図って参ります。

最後になりますが、本日のサミットが、お集まりのがん患者の皆様やその御家族をはじめ、医療関係者などその支援者の皆様にとって、実りあるものとなることを期待いたしまして、私からのメッセージとさせていただきます。

すい臓がんサバイバー メッセージ



高村 僚

すい臓がんブレイクスループロジェクト

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』開催誠におめでとうございます。

昨年の「日米がん撲滅サミット 2020」に引き続きコロナ下での開催にご尽力されました、中見利男様他スタッフの皆様にご心より敬意を表します。そして、貴重なお時間を我々ががん患者の為に足労頂いた全ての皆様に御礼申し上げます。

私は2010年2月にすい臓がん初回手術、その後2度の再発再手術を行いました。しかし完治はかなわず、2015年7月からは再発すい臓がんとの共存が続いております。そんな中、2016年横浜で行われた「第2回がん撲滅サミット」公開セカンドオピニオンに、標準治療ではないが保険診療で実施可能な治療法を行う医師が登壇されると聞き期待しておりました。ところが、急遽中止になり失望し事務局に連絡を差し上げたことがきっかけとなり、2018年から中見様とのお付き合いが始まりました。この数年で旧知の親友のような関係を築けたのは、中見様が真摯にがん患者の為に尽くす姿を拝見してきたからです。

「がん撲滅サミット」に参加された方ならご存知の通り、「公開セカンドオピニオン」は、会場からの質問に十数名おられる医師の中から適切な医師に回答して頂くもので、司会進行手腕は並大抵なことではありません。残念ながら去年は急病で欠席されましたが、今年も素晴らしい「公開セカンドオピニオン」を拝見出来ることを大いに期待しております。

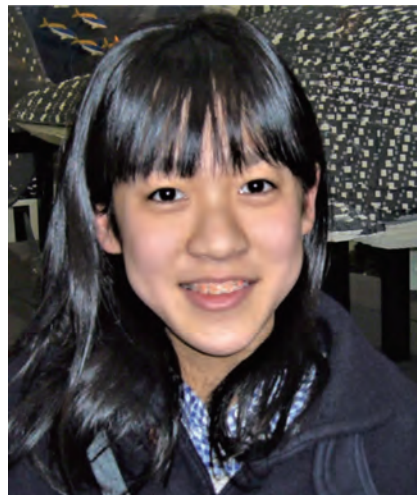
がんの5年生存率は60%を超えるようになり、がん＝死という構図はなくなりましたが、難治性がんの代表すい臓がんは5年生存率10%程度です。すい臓がん研究に投資を行い、厳しい道ではありますが少しでも希望の光を見いだすため「すい臓がんブレイクスループロジェクト」を立ち上げて頂きました。

また、多くのがん患者が抗がん剤治療の副作用で苦しむ現状をみて「抗がん剤副作用軽減プロジェクト」も立ち上げられました。これまでは、命が助かれれば副作用は我慢すべきと考えられてきましたが、極力少ない副作用で治療が長く行え、QOL(生活の質)を保って人生を送れることは、副作用に苦しむ全がん患者にとりましては本当に有り難いことです。

これからもがん撲滅に向かい邁進される「がん撲滅サミット」に大いに期待しています。そして、微力ながらサポートさせていただきます、命ある限り。

天国の^{さかた なつ の}坂田捺乃さんへ贈る 追悼文

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA
代表顧問 中見 利男



5年前の2016年10月22日。この日開催されたがん撲滅サミットのステージで1人の少女が生きることの尊さ、何かに向かってチャレンジしていくことの大事さ、そして小児がんと闘っている同世代の子供たちに向かってエールを送る予定でした。

当時、中学2年生だった坂田捺乃（さかた なつ の）さんが、その人です。平成13年3月26日生まれの坂田捺乃さんは三沢市立三沢第一中学校時代に脳幹グリオーマという小児がんを発症しました。

小児がんと闘っている彼女のことを知ったのは、妻の友人の紹介でした。

リハビリ中の2015年7月、小児がん撲滅を願っていた彼女に、がん撲滅サミット2016への登壇をお願いすると、リハビリ中の彼女から、こんなメールが返ってきました。

「ありがとうございます。ほかの子供たちのお役に立てるのでしたら頑張ります。でも、先生、私、緊張したら笑ってしまうので、どうしようかと思います」

読書が好きだった彼女は、その一方で皆さんもお名前を聞けばご存じの国民的なアーティストの大ファンでした。手術の前や放射線治療中、そして病室でイヤホンを通じて、彼らの音楽に耳を傾け、がんと闘う勇気と前向きに生きていくパワーをもらっていたそうです。

2015年9月に病気が再発し、その後、自宅治療で頑張っていたなっちゃんにもクリスマスが近づいてきました。ある日、ご両親が「なっちゃん、クリスマスプレゼント何が欲しい」と尋ねると、彼女は

「私のものはいいから、大好きなアーティストに小児がんで苦しんでいる子供たちや家族が元気になる歌を作って欲しい」

ご両親は困惑して顔を見合わせました。彼女の夢があまりにも壮大で、お店で買えるようなリクエストではなかったからです。

「それ以外に、なっちゃんが欲しいものはないの？」と聞いても、

「ない。あの人たちに私と同じように苦しんでいる子供たちや支えてくれている家族が元気になる歌を作って欲しいの」

この言葉を聞いたご両親は行動を起こそうと決意したのです。多くの人たちに坂田捺乃さんの願いを伝え、少しでも彼女の夢を応援してほしいと奔走したのです。

お金では買えないプレゼント。しかも、同世代の小児がんで苦しんでいる子供たちを励ましてほしいという崇高で清らかな願い。彼女の願いだけでも、そのアーティストに届けようと皆が八方手を尽くしました。

追悼文

そして2016年1月のある日。父親の篤史さんの携帯に一本の電話がかかってきました。

「突然のお電話で失礼します。坂田捺乃さんのお父さんですか？」

その声は、あのアーティストご本人だったのです。しかし坂田捺乃さんの意識は混濁し、眠ったままの状態です。それでも篤史さんは捺乃さんの耳元に携帯電話を当ててあげました。かすかにアーティストの声が漏れてきます。

「なっちゃん！ なっちゃん！ 早く元気になってね。応援しているからね。東京の病院に入院することがあったら、必ずお見舞いに行くから頑張っってね。応援の歌はすぐにできなくても、僕らの歌の中から応援の歌になると思うものをみんなを選んで送るからね」

その後、坂田捺乃さんと小児がんで闘う子供たちのために、そのアーティストとメンバーが皆で選んだ曲が送られてきました。坂田捺乃さんの夢が奇跡を起こしたのです。

我々は心から感動を覚えました。自分だけではなく同世代の小児がんで闘う人たちを励ましてあげて欲しい。そんな純粋な思いが人を動かすのだと。

しかし、その1ヶ月後の2016年2月6日、闘病の末、彼女はわずか14歳で天上の星になりました。

彼女から私に送られてきた最後のメールには

『中見先生、私はしっかり勉強して女医さんになりたいと思います。女医さんになって小児がんの子どもたちをみんな治してあげたいんです』

と強い決意が綴られていました。

星になった彼女の名前は、『光明院天心桜華清童女』。天女のように清らかな心で、地上で闘い続けるがん患者の皆さんを応援する少女という意味です。

私は思います。彼女の崇高な願いは小児がんを抱えて闘う子供たちだけでなく、我々に向けて託された夢だったのではないかと。

本日、闘病中だった彼女が、2015年6月9日に開催された第1回がん撲滅サミットに寄せてくれた手紙をご紹介します。

『がん撲滅サミットに参加された皆様にお手紙を差し上げるご無礼、どうかお許し下さい。また、リハビリ中のため手が思うように使えず、乱筆にて失礼いたします。

病気だと分かった日。私は怖くて怖くて涙が止まりませんでした。なぜ自分が、こんな病気になってしまったのだろうと悔しかったです。

今、退院してから検査がすごく怖いのです。病院で何度もとったMRIも大きな音がして、狭くてすごく怖いです。また病気が大きくなって、せっかく頑張った入院生活をまたやり直すことになったら、前と同じように治療はうまくいくのか。たくさん不安があります。

私は、脳幹部に腫瘍があります。先生からは手術では手が出せない所だと説明を受けました。だから腫瘍は小さくすることしかできません。一生この病気と離れられないのかもしれないかもしれません。すごく悔しいです。

でも、私の主治医の先生は、こう言ってくれました。

「泣いてもいいけど、泣いたら小さくなってくれるような弱い病気じゃない。だから一緒に闘おう」

私はこの言葉のおかげで、不安で泣いてしまうことがあっても、すぐに前向きになる事ができます。その先生の下には私と同じような病気の子供がたくさんいました。中には二回、三回と入院している子もいて驚きました。でも、みんな元気で明るく頑張っている姿を見て、私も前向きになれました。

私の母はずっと入院中、そばにいてくれました。いつも明るく私を笑わせてくれて元気をもらっていました。

でも中には、私より小さい子供が一人で寝泊まりしていました。私がお金のことでも家族のサポートのことでも、よい環境で治療を受けることができたこと、今、思っています。

しかし、すべての子供たちがそうではありません。気持ちを強くもって治療に臨むことが、私は大事だと思います。本人や家族が治療に集中できる環境作りが大切だと思います。

治療を受ける私たちにとって、周りのサポートはすごく重要です。大切な人がそばにいてくれれば、きっと前向きな気持ちになれると思います。

私と同じような病気の子供たちの、がまんや不安な気持ちを少しでも減らしてほしいです。

私が病気になってから、中見先生や東京の病院の先生に助けられて、病気と闘うことができます。手術後に不安になったり、傷口が痛んだり、ワガママを言いたくなることもきっとあると思います。

そんな時、だれかがそばにいて、きっと力になるし、大事なことだと思います。

私は今まで、ニュースなどを何気なく見ていました。難病で海外に行くための募金を集めたりしているのを目にしました。早く治療をして、病気を治したいのにお金のことですべて困ってしまうのは、すごく大変だと思います。

私は自分の治療費のことなどを知りません。少し不安になったこともあったけど、父が「何も気にしないでいいんだからな」と言ってくれて、安心しました。また、弟が青森にいますが、父と祖父母が面どうを見て、母はずっと私につきそってくれました。

しかし、小児難病と闘っている子供たちが日本には、まだたくさんいると思います。

私の小さな力で何かできることはないかと思い、今、こうして手紙を書きました。

私の願いが届きますように。

坂田 捺乃』

以下はご両親からいただいた『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』へのメッセージです。

『娘の闘病生活が終わり 5 年 10 ヶ月余り。様々な感情と共に移り行く日々を、娘をいつも傍に感じつつ過ごしています。

代表顧問、中見先生のお力添えにより、素晴らしい医師団に出会い、病気と向き合うための心のケアから始まり、主治医と共に強い気持ちで治療に臨みました。

娘も私たちも最後まで諦めず、その後も様々な医師と治療の可能性を探り、納得した治療を受けた結果として、寂しさを抱えながらも、前向きに生きようとする今があると感じています。

本日、がん撲滅サミットに参加されている患者、ご家族様のお悩みやご心配事もまた、様々なでしょう。皆様が治療に向けたヒントを得られ、共に闘って頂ける医師に巡り合われる事を願ってやみません。

娘は最後まで病気と向き合い、また、同じ境遇の子供達に心を痛めておりました。

今回のサミットが、そのようなお子様方やそのご家族にとっても、ひとつの希望となりますことを心よりお祈りいたしております。』

おかげ様で坂田捺乃さんの願っていたウイルス療法 G47 Δが、がん撲滅サミットの働きかけにより条件付承認となり、脳幹グリオーマの患者の皆様にも適用されることになりました。

我々、がん撲滅サミットは星になった彼女の夢をさらに叶えるため、小児がん撲滅に挑戦していくことをここに誓います。

講演者プロフィール



はら じょうじ
原 丈人 先生

「がん撲滅・世界連携最前線 2021」

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』大会長
内閣府参与／法務省危機管理会社法制会議 議長
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 会長
(国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関)

[略歴]

27歳まで中米考古学研究の後、渡米し在学中に起業。

1984年 デフタ パートナーズを創業、米・英・イスラエルで情報通信、半導体、ライフサイエンス分野のスタートアップベンチャーに出資、経営参画し、世界的企業へと成長させた。

近年は、「天寿を全うする直前まで健康であることを実現することができる世界最初の国を創る」という理念を実現するために、DEFTA Healthcare Technologies, L.P. (事業開発会社) を設立し「技術イノベーション」「制度イノベーション」「エコシステム」の構築に取り組み、米欧日で革新的技術の事業化に取り組んでいる。

一貫して株主資本主義に警鐘を鳴らし、公益資本主義の実現を提唱し、香港中文大学経営学大学院招聘教授、大阪大学医学部大学院招聘教授として若者に理念を説く。

国連政府間機関特命全権大使、ザンビア大統領顧問、米共和党ビジネスアドバイザー、リーボード名誉共同議長、日本の財務省参与、国連経済社会理事会の特別協議資格を有するアライアンス・フォーラム米合衆国公益財団会長など国内外で公職を歴任。

【著書】『増補 21世紀の国富論』(平凡社)、『公益資本主義』(文春新書)がある。



マーク・J・ラテイン 先生 「米国が描くがん撲滅戦略 2021」

マーク・J・ラテイン 医学博士
シカゴ大学プレジジョン医療研究センター センター長・教授

[略歴]

進行性固形腫瘍を治療するための治験薬の使用、及び販売用医薬品の臨床薬理学の専門家。腫瘍治療用の新薬の臨床開発に長年関心を持っており、最近ではゲノム薬理学を利用して患者一人ひとりの個別処方を行うこと、すなわち、より少ない投薬量、より少ない投薬頻度、より短い治療期間、そして代替治療薬の使用を通じて処方費用を削減することを目的とした介入薬理経済学の研究に焦点を当てている。

第Ⅰ相臨床試験、薬理遺伝学および臨床試験方法論の国際的リーダーであり、最近、介入薬理経済学の新しい分野を開拓。500を超える記事と書籍を執筆し、現在、総合がんセンターの臨床科学担当副所長、シカゴ大学プレジジョン医療研究センターセンター長、シカゴ大学医学部の主任病院薬理学者を務める。

2015年 アメリカ研究製薬財団から「臨床薬理学優秀賞」を受賞。

2016年 がん治療のジャイアンツ認定プログラムの腫瘍学部門(科学の進歩)にノミネート

2019年 トーマス・ジェファーソン大学で「グルーバー賞受賞」記念講演を行う。



いずみ ひろと
和泉 洋人先生 「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦 2021」

前内閣総理大臣補佐官
内閣官房健康・医療戦略室 前室長

[略歴]

- 昭和51年 4月 建設省 入省
- 平成13年 1月 国土交通省 住宅局住宅総合整備 課長
- 平成16年 7月 国土交通省 大臣官房審議官 (住宅局担当)
- 平成19年 7月 国土交通省 住宅局長
- 平成24年10月 内閣官房 参与 (国家戦略担当)
- 平成25年 1月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに地域活性化担当) (第2次安倍内閣)
- 平成29年11月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当) (第4次安倍内閣)
- 平成30年10月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当) (第4次安倍改造内閣)
- 令和元年 9月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当) (第4次安倍第2次改造内閣)
- 令和2年 9月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当) (菅内閣)
- 令和3年10月 一般財団法人 日本建築センター 顧問



ふくしま やすまさ
福島 靖正先生 「がん対策加速化に向けて 2021」

厚生労働省 医務技監

[略歴]

- 1959年 熊本県生まれ
- 1984年 熊本大学 医学部 卒業
- 2007年 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健 課長
- 2009年 健康局 結核感染症 課長
- 2012年 大臣官房 厚生科学課長
- 2013年 農林水産省 大臣官房審議官
- 2014年 厚生労働省 大臣官房審議官 (医政担当)
- 2015年 健康 局長
- 2017年 成田空港 検疫 所長
- 2018年 国立保健医療科学 院長を経て
- 2020年 8月より現職

講演者プロフィール



なかむら ゆうすけ
中村 祐輔 先生

「日本のがん医療革命最前線」

公益財団法人がん研究会がんプレジジョン医療研究センター所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター
シカゴ大学名誉教授、東京大学名誉教授

[略歴]

- 1977年 大阪大学医学部 卒業
- // 大阪大学医学部 附属病院 (第2外科) 勤務
- 1984年 医学博士 (大阪大学)
- 1987年 ユタ大学 人類遺伝学教室 助教授
- 1989年 財団法人 癌研究会癌研究所 生化学 部長
- 1994年 東京大学医科学研究所 分子病態研究施設 教授
- 1995年 東京大学医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター長・教授 (～2011年1月)
- 2001年 オンコセラピー・サイエンス 創設
- 2005年 理化学研究所ゲノム医科学研究センター長 併任 (～2010年3月)
- 2010年 独立行政法人 国立がん研究センター研究所 所長 併任 (～2010年12月)
- 2011年 内閣官房医療イノベーション室長
(我が国の医療イノベーションを推進するための戦略作成)
- 2012年 シカゴ大学医学部血液・腫瘍内科教授・個別化医療センター 副センター長
- 2017年 人工知能を医療に応用するフロンテオヘルスケア社の設立に尽力
- 2018年 公益財団法人がん研究所がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター
シカゴ大学名誉教授、東京大学名誉教授
- 2020年9月 『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』受賞

原著英文論文は Nature17編、Nature Genetics 70編、New England Journal of Medicine 7編、Science11編、Cancer Research115編など1,400編以上、その引用件数は約16万回。h-indexの世界ランキングで77位 (2018年3月9日現在)



フランシス・チャン 先生

「生活習慣病の克服に向けた逆転の発想」
～マイクロバイオーマとは何か？～

香港中文大学医学部 部長
(腸内細菌等を活用したマイクロバイオーマの世界的権威)

[略歴]

- 香港中文大学 (CUHK) 卒業
- Croucher Foundation (カナダ) 研究員、大学院終了
- 1997年 香港中文大学医学部 講師
- 2005年 香港中文大学医学部 医学教授
- 2010年 香港中文大学医学部消化器疾患研究所 所長、副学部長 (臨床)
- 2013年 香港中文大学医学部 学部長

現在、腸内細菌研究センター所長。CUHK、及び香港特別行政区政府のイノベーション及びテクノロジー委員会の Health@InnoHK スキームに基づく Microbial-Center (MAGIC) Limited 共同ディレクター。

5年連続、全米最優秀教師賞を受賞。副学長の模範的な教育賞を2回受賞。

胃腸疾患の国際的に有名な臨床科学者であるチャン教授は、これまで影響力の大きい国際ジャーナルに500編以上の科学論文を発表し、h指数は109。NSAIDとアスピリン関連の胃腸出血に関する研究は、臨床の大幅な改訂につながった。米国、ヨーロッパ、アジア太平洋地域での実践ガイドライン。医学研究への貢献は、David Y. Graham Lecturer など、多くの国内及び国際的な栄誉と賞を受賞して世界中で認められている。



ジャン=イヴ・ブレイ 先生 「EU 及び世界のがん治療最前線」

フランス・レオンベラルセンター 教授

[略歴]

ジャン=イヴ・ブレイ教授 (MD) は、腫瘍内科医であり、フランス・リヨンの総合がんセンターであるレオンベラルセンター (Centre Leon Berard) ゼネラルディレクター、研究者、フランス・クロード・ベラル大学 教授。

- 2019年～ フランスがんセンター連合 会長
肉腫、ゲノミクスとがんの標的治療、免疫腫瘍学、腫瘍の免疫学的微小環境と悪性細胞の関係を中心に研究。診断、予後、治療の分野での臨床応用を目指している。
- 2012年 ESMO (欧州臨床腫瘍学会) Hamilton-Fairly 賞 受賞
- 2013年 米国医学アカデミー Henry and Mary-Jane Mitjavage 賞 受賞
- 2019年 ESMO 大会長 (参加者数 30,000人)
- 2018年～ LYRICAN SIRIC (旧 LYRIC) ディレクター
フランスサルコーマグループ 会長
- 2019年～ INCA の肉腫センターのネットワークである NETSARC+ のディレクター、全世界の肉腫研究グループのシンクタンクである World Sarcoma Network (WSN) 秘書
- 2016年 EU委員会アドバイザー、EU内の希少がん患者のケアの質を向上させる。

ブレイ教授は、1,000以上の査読付き記事や本を共同執筆しており、2019年には Highly Cited Researcher として表彰されている。また、国内外のさまざまな医療・研究機関にアドバイスしており、ESMO、CTOS、ASCO、AACR など、複数の腫瘍学の科学組織や学会のメンバーとして活躍している世界のがん医療の重鎮。



かわだ のりふみ 河田 則文 先生 「がん撲滅に向けた肝胆膵治療最前線」

大阪市立大学大学院 医学研究科肝胆膵病態内科学 医学部長・教授

[略歴]

- 1986 大阪市立大学医学部 卒業
- 1987-1991 大阪市立大学大学院医学研究科、博士課程 (社会医学系専攻)、医学博士
- 1991-1992 フライブルグ大学 (ドイツ共和国) 生化学研究施設、客員研究員
- 1993-1994 大阪市立大学医学部附属病院 研究医
- 1994-2002 大阪市立大学医学部第3内科、助手
- 2003-2004 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 講師
- 2005-2006 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 助教授
- 2007- 現在 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 教授
- 2015- 現在 University College London (UCL), Visiting Professor
- 2019- 現在 ハノイ医科大学 (ベトナム社会主義共和国)、名誉教授
- 2020- 現在 大阪市立大学大学医学部長、大学院医学研究科長

学生の頃から炎症に関心を持つようになり、教育、診療を行いながら基礎研究を約35年間継続して行っている。研究のテーマは「臓器線維化が生じるメカニズムの解明とがん発生母地としての線維化の役割」。この研究過程で「サイトグロビン」という哺乳類第4番目のグロビン蛋白を発見し、このタンパク質研究における世界の第一人者。

講演者プロフィール



さかぐち しもん
坂口 志文 先生 「制御性T細胞によるがん予防薬開発最前線」

大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授

[略歴]

学歴・職歴

- 1976年3月 京都大学医学部医学科 卒業
- 1976年4月 京都大学大学院医学研究科 入学
- 1980年4月 京都大学医学部 免疫研究施設及び附属病院輸血部 医員
- 1983年9月 京都大学医学部 博士号取得
- 1983年9月 Johns Hopkins 大学 客員研究員
- 1987年7月 Stanford 大学 客員研究員
- 2011年4月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学分野 教授
- 2016年4月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学分野 特任教授（現職）、大阪大学 名誉教授、京都大学 名誉教授
- 2017年4月 大阪大学 栄誉教授

[賞]

- 1986年7月 Lucille P. Markey Award for Biomedical Science
- 2004年6月 Cancer Research Institute's 2004 William B. Coley Award
- 2007年4月 文部科学大臣表彰科学技術賞
- 2009年11月 紫綬褒章
- 2012年5月 米国 National Academy of Sciences 外国人会員
- 2015年1月 Maharshi Sushruta Award (India)
- 2015年9月 トムソン・ロイター引用栄誉賞
- 2015年10月 Gairdner International Award (Canada)
- 2017年5月 Crafoord Prize (Sweden)
- 2017年10月 文部科学省 文化功労者 顕彰
- 2019年11月 文化勲章受賞
- 2020年1月 パウル・エールリヒ&ルートヴィヒ・ダルムシュテッター賞
- 2020年6月 ロベルト・コッホ賞 ほか多数

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 公開セカンドオピニオン®

すべてのがんにリベンジを！

～皆様のご質問にお答えするのは
がん医療最前線に立つ 11 人の名医～

〈順不同〉



ナビゲーター

なかみ としお
中見 利男 氏

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 代表顧問、提唱者／作家・ジャーナリスト

■皆様へのメッセージ

本日、日本が世界に誇る医師の方々と皆様のコラボレーションで大阪国際会議場を巨大なセカンドオピニオンエリアに変えましょう。患者の皆さんに寄り添うがん医療の確立を目指すためにも、皆様方のご質問を心よりお待ちしております。



なか お あきまさ
中尾 昭公 先生

名古屋大学 名誉教授・名古屋セントラル病院 院長・医学博士
(すい臓がん手術)

〔略歴〕

昭和23年1月 岐阜県恵那市生まれ
昭和41年3月 岐阜県立恵那高等学校 卒業
昭和48年3月 名古屋大学医学部 卒業
昭和55年7月 名古屋大学医学部第二外科 帰局 肝臓研究室所属 (肝・胆道・膵外科)
平成元年9月 米国ピッツバーグ大学外科 留学
平成4年3月 名古屋大学医学部第二外科 助教授
平成11年2月 名古屋大学医学部第二外科 教授
平成18年5月 名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学 教授 (平成23年3月まで)
平成23年4月 名古屋セントラル病院 院長就任、現在に至る。

【業績】

1981年に抗血栓性門脈バイパス用カテーテルを開発「門脈カテーテルバイパス法」を考案。
1992年には「Mesenteric Approach (腸間膜到達法)」など多くの新手術術式を確立してきた。難治癌と言われる膵癌手術において手術成績の向上をもたらし、外科治療分野への著しい貢献を果たしている。門脈バイパス用カテーテルは、医学における歴史的意義を有し、科学技術の進歩に貢献する医科器械として認められ、
2008年に財団法人日本医科器械資料保存協会の「医科器械史研究賞」を受賞。
2013年に癌に対する外科治療の功績が認められ、第19回一般社団法人日本癌治療学会「中山恒明賞」を受賞。
海外でも業績を認められ、
タイ王立外科学会 (Royal College of Surgeons of Thailand (2008))、エジプト外科学会 (Egyptian Society of Surgeons (2010))、ヨーロッパ外科学会 (European Surgical Association (2011))、フランス外科学会 (French Surgical Association (2011))、スペイン外科学会 (Spanish Society of Surgeons (2015))、セルビア外科学会 (Serbian Medical Academy (2016)) 等から名誉会員の称号を授与された。
2018年10月には第104回米国外科学会 (American college of surgeons) において日本人として17人目の名誉会員に選出された。



おがわ かずひこ
小川 和彦 先生

大阪大学大学院 医学系研究科 放射線治療学講座 教授
(カプセル型小線源治療・サイバーナイフ・IMRT 等)

[略歴]

- 1991年 3月 千葉大学医学部 卒業
- 1991年 5月 千葉大学医学部放射線医学教室 医員
- 1992年 10月 琉球大学医学部放射線医学教室 医員
- 1993年 5月 琉球大学医学部附属病院放射線科 助手
- 2003年 4月 九州大学生体防御医学研究所分子腫瘍学分野 国外研究員 (2004年 4月まで)
- 2005年 1月 琉球大学医学部附属病院放射線科 講師
- 2005年 10月 ハーバード大学マサチューセッツ総合病院放射線腫瘍科
国外研究員 (2006年 4月まで)
- 2007年 10月 琉球大学医学部附属病院放射線部 准教授
- 2011年 12月 大阪大学大学院医学系研究科放射線治療学講座 教授、現在に至る



なかやま たかひろ
中山 貴寛 先生

大阪国際がんセンター乳腺・内分泌外科 主任部長
(乳がん)

[略歴]

- 1990年 奈良県立医科大学 卒業
大阪大学医学部第二外科 (現消化器外科) に入局 一般外科 研修
- 1994年 大阪大学大学院において、1998年から2年間、米国John Wayne Cancer Instituteにて癌の発生・進展に関する研究に従事
- 2005年 米国 MD Anderson Cancer Centerに留学、乳癌のチーム医療を学ぶ
- 2008年 4月 大阪大学大学院医学系研究科 乳腺内分泌外科 勤務 (2012年3月まで)
- 2012年 4月 大阪府立成人病センター (現 大阪国際がんセンター) 乳腺・内分泌外科 副部長
- 2016年 同 主任部長

2020年4月より乳腺センターを新設し、乳腺センター長として乳癌診療におけるチーム医療の推進、新しい薬剤や治療法の開発を目的とした治験や臨床試験の実施、さらに乳癌治療の個別化にむけた基礎研究など、多岐にわたる活動を行っている。

【出演番組】

読売テレビ／「おはよう！ドクター」「情報ライブ ミヤネ屋」「かんさい情報ネット ten」「朝生ワイドす・またん！」「news every」 など出演



(リモート出席)

かわだ のりふみ
河田 則文 先生

大阪市立大学大学院医学研究科医学研究 科長・肝胆膵病態内科学 教授
(肝臓がん撲滅等を主導する世界的名医)

【略歴】

- 1986 大阪市立大学医学部 卒業
- 1987-1991 大阪市立大学大学院医学研究科、博士課程(社会医学系専攻)、医学博士
- 1991-1992 フライブルグ大学(ドイツ共和国) 生化学研究施設 客員研究員
- 1993-1994 大阪市立大学医学部附属病院 研究医
- 1994-2002 大阪市立大学医学部第3内科 助手
- 2003-2004 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 講師
- 2005-2006 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 助教授
- 2007-現在 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 教授
- 2015-現在 University College London (UCL), Visiting Professor
- 2019-現在 ハノイ医科大学(ベトナム社会主義共和国)、名誉教授
- 2020-現在 大阪市立大学大学医学部長、大学院医学研究科長

学生の頃から炎症に関心を持つようになり、教育、診療を行いながら基礎研究を約35年間継続して行っている。研究のテーマは「臓器線維化が生じるメカニズムの解明とがん発生源地としての線維化の役割」。この研究過程で「サイトグロビン」という哺乳類第4番目のグロビン蛋白を発見し、このタンパク質研究における世界の第一人者。



(リモート出席)

ふじわら としよし
藤原 俊義 先生

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 消化器外科学 教授
(食道がん・テロメライシンウイルス療法及びすい臓がん等の治療に向けた次世代テロメライシンウイルス療法の開発)

【略歴】

- 1985年 岡山大学医学部 卒業
- 1990年 岡山済生会総合病院などで研修、同大学院を修了、医学博士取得
- 1991年 3年間、米国テキサス大学MDアンダーソン癌センターに留学、アデノウイルスベクターを用いたがんの遺伝子治療開発に従事 帰国後、岡山大学病院で臨床と研究に携わる
- 2010年 岡山大学大学院消化器外科学 教授
- 2011~2019年 岡山大学病院 副院長、消化器外科領域での腫瘍融解ウイルスの創薬研究や低侵襲な分子イメージング開発が専門
日本癌治療学会 理事

【著書】

- 「入門 腫瘍内科学(改訂第3版)」南江堂、2020
- 「遺伝子治療 MOOK 30」メディカルドゥ、2016
- 「次世代のがん治療薬・診断のための研究開発」技術情報協会、東京、2016

【出演番組】

- 「がん医療最前線」(BS-TBS) (2017年2月3日放送)
- 「おはよう日本」(NHK) (2014年1月11日放送)
- 「サイエンス ZERO」(NHK) (2008年10月19日放送)
- 「たけしの本当は怖い家庭の医学」(テレビ朝日) (2007年1月9日放送)
- 「クローズアップ現代」(NHK) (2002年12月12日放送) ほかも多数



やまうえ ひろき
山上 裕機 先生

和歌山県立医科大学 外科学第2講座 教授・膵がんセンター長・次世代医療研究センター長
和歌山県立医科大学 副学長
(すい臓がん)

【略歴】

1981年3月 和歌山県立医科大学 卒業
1992年9月 アメリカNIHの国立がん研究所 (NCI) にてVisiting Associate
2001年6月 和歌山県立医科大学 外科学第2講座 教授
2014年4月 和歌山県立医科大学 医学部長
2017年4月 和歌山県立医科大学附属病院 病院長 (2021年3月まで)
2019年9月 和歌山県立医科大学附属病院 膵がん センター長

【主な学会活動】

日本消化器外科学会：第75回総会会長 (2020年12月開催)、理事 (2020年まで)
日本肝胆膵外科学会：監事、理事
日本膵臓学会：理事、評議員、指導医
日本癌学会：評議員
日本癌治療学会：代議員
日本バイオセラピー学会：理事 (元 理事長)
日本がん免疫学会：理事、第25回総会 会長 (2021年7月開催)
上記を含め 計44学会・研究会の役員として活動



さ の けいじ
佐野 圭二 先生

帝京大学医学部 外科学講座 教授
(肝臓がん、胆管がん、すい臓がん)

【略歴】

1990年 東京大学医学部 卒業
2004年 東京大学医学部 肝胆膵・移植外科 講師
2009年 日本赤十字社医療センター 外科部長
2010年4月～ 帝京大学医学部 外科学講座 教授

【専門】 肝胆膵の悪性疾患に対する集学的治療 (特に高度進行症例)



おおはた けん
大園 研先生

日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本内科学会 認定医
日本消化管学会胃腸科 専門医
日本消化器内視鏡学会 関東支部 評議委員
(大腸がん、内視鏡手術の世界的権威)

[略歴]

1974年 茨城県生まれ
1998年 日本大学医学部 卒業、JR東京総合病院 内科研修医
2000年 JR東京総合病院 消化器内科 入局
2007年 NTT東日本関東病院 消化器内科医 入局
2013年 NTT東日本関東病院 内視鏡部 部長
2014年 大連医科大学付属 大連市中心病院 消化内鏡二科 特聘教授 (中国)
Qilu Hospital of Shandong University 客員教授 (中国)
2016年 東京女子医科大学附属成人医学センター 消化器科 非常勤講師
蘇州相城区人民病院 消化器内科 客員教授 (中国)
北京大学付属人民病院 消化器内科 客員教授 (中国)
2017年 東京医科大学 消化器内視鏡学分野 兼任助教
2018年 南昌大学第一附属医院 消化器内科 客員教授
2019年 NTT東日本関東病院 消化管内科 部長
士別市地域医療アドバイザー、日本先端医療技術交流協会 理事

趣味は『内視鏡』と豪語する。現在、日本におけるがん罹患数1位、2位を占める胃がんと大腸がん。開腹手術に代わる、おなかを切らない治療“内視鏡治療：ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術)”の第一人者。
【出演番組】 2016年「情熱大陸」「サンデープラス」、2018年「スッキリ」、2020年「名医の極み」、他多数。密着取材にも協力し力を注いでいる。

【著書】 多数



うえのの やすひと
上園 保仁先生

東京慈恵会医科大学疼痛制御研究講座 特任教授
(総合医療、漢方)

[略歴]

1985年3月 産業医科大学 卒業、医師免許 取得
1989年3月 産業医科大学大学院 修了、医学博士 取得
1991年1月 米国カリフォルニア工科大学 生物学部門 ポストドクトラルフェロー
2009年1月 国立がんセンター研究所 がん患者病態生理研究部 部長
2015年～2020年 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長
2020年～ 東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座 特任教授
国立がん研究センター 東病院 支持・緩和研究開発支援室 特任研究員 (併任)
国立がん研究センター 先端医療開発センター 支持療法プロジェクト プロジェクトリーダー (併任)
長崎大学 客員教授 (併任)
順天堂大学大学院 疼痛制御学講座 客員教授 (併任)
(現在に至る)



かま だ ただし
鎌田 正 先生

神奈川県立がんセンター 重粒子線 センター長
千葉大学大学院医学研究院・群馬大学医学部医学科、客員教授 併任
新潟大学大学院医歯学総合研究科・北海道大学医学部医学科、客員教授 併任
(重粒子線治療)

[略歴]

1973年4月 北海道大学医学部医学進学過程 入学
1979年3月 北海道大学医学部医学科 卒業
1979年7月 北海道大学医学部附属病院 放射線科 医員
1994年10月 科学技術庁放射線医学総合研究所 重粒子治療センター治療診断部治療課 医長
2001年7月 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター診断課臨床検査 室長
2008年6月 放射線医学総合研究所 重粒子医科学 センター長
2016年4月 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
同 放射線医学総合研究所 臨床研究 クラスター長
同 放射線医学総合研究所病院 病院長 併任
神奈川県立がんセンター 重粒子線 センター長

【出演番組】

「鳥越俊太郎 医療の現場」(BS朝日)
「現場に訊く！ここまで来た！がん治療」
「NHKジャーナル」(ラジオ第1・平日 PM10:00～11:10 全国放送)
スタジオ生出演でのインタビュー



きよまつ ともみち
清松 知充 先生

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 大腸肛門外科 診療科長・下部消化管外科
医長
(大腸腹膜播種)

[略歴]

1998年 東京大学医学部 卒業
1999年 癌研究会附属病院 外科
2000年 NTT東日本関東病院 外科
2003年 東京大学大学院 医学系研究科 外科学
2007年 日立製作所 日立総合病院 外科
2011年 東京大学医学部 腫瘍外科 助教
2016年 東京大学医学部 腫瘍外科 特任講師、腫瘍外科・血管外科 医局長
2017年 国立国際医療研究センター病院 外科
(2018年より大腸肛門外科 診療科長)

【専門分野】

大腸癌・直腸癌の外科治療／直腸癌手術における機能温存手術(肛門、排尿機能、性功能)／ロボット(ダヴィンチ)手術および腹腔鏡手術による低侵襲治療／腹膜偽粘液腫の外科治療／特殊な粘液産生腫瘍の腹膜播種である腹膜偽粘液腫の外科治療【完全減量手術(腹膜切除)と術中腹腔内温熱化学療法】／虫垂粘液瘤(未破裂で腹膜偽粘液腫の前段階の虫垂)の手術

【主な資格】

日本外科学会：専門医・指導医／日本消化器外科学会：専門医・指導医／消化器がん外科治療認定医／
日本がん治療認定医機構：がん治療認定医／大腸肛門病学会：専門医／日本内視鏡外科学会：技術認定医／日本ロボット外科学会：専門医・Robo Doc Pilot 認定(消化器外科)

世界がん撲滅大阪宣言 2021

1961年5月、アメリカのJ.F.ケネディ大統領が「ニューフロンティアを目指そう」とアポロ計画を提唱した結果、人類は月面に着陸することができた。

そして21世紀の現在も米国、ロシア、中国などの大国及び民間有志は次々と月や火星を目指し、日夜しのぎを削っており、そのニューフロンティアは依然として宇宙にあると言っても過言ではない。

ケネディ大統領というたった一人の人間が約60年前に行動を起こそうと呼びかけたことで宇宙はニューフロンティアに変わり、そこから人類が受けた科学的技術的恩恵は計り知れないものがある。

しかし我々人類は未だに地球上にはもう一つのニューフロンティアが存在していることを忘れてはいないだろうか。

それこそが、『がん撲滅』という前人未到の大地である。

人類とがんの死闘は約4千年前から続いているが、悲しいかな人類はがんを撲滅するどころか、圧倒されつつある状況である。

たとえば、日本では2人に1人が罹患し、がん患者のうち3人に1人が死亡している。一方、アメリカでも2019年では176万2,450人が、がんにより罹患し、死亡者は60万6,880人と予測されている。

近年になって、がんの予防と治療に対する考え方が浸透してきたとはいえ、がんは依然として人類にとって深刻な問題であることに変わりはない。

見回せば各国で、気鋭の研究者が次々と先端医療を生み出している。

しかし、その一方で子どもたちや前途ある若者、子育てに励む主婦や一家の大黒柱が次々にがんによって打ちのめされ、天に召されているのである。

果たして、我々人類は、このままたんに打ちのめされ続けたままで良いのだろうか。そのツケは必ず次世代の子どもたちに回ってくるというのに、である。

確かに我々の前には、とてつもなく高い壁が、聳え立っているのかもしれない。

だが、果たして小児がんの病棟にいる、あの子どもたちを救うことは不可能なのだろうか。

すい臓がんで苦しみ、悩んでいる人々を救うことは不可能なのだろうか。

病院のベッドの上で天井を見つめながら輝かしい未来と夢を思い描く、あの子どもた

ちを救うことは不可能なのだろうか。

たしかに今までがんを撲滅することは不可能だと言われてきた。

だが、J・F・ケネディ大統領にしてもペストや天然痘、結核を撲滅しようと思いついた人々も、そんなことは不可能だと当初はと言われてきたのである。

しかし彼らはこう考えた。

『それでも不可能を可能に変えてみせよう！』と。

その結果、我々の先人は月に降り立ち、古にはペストや天然痘、結核など不治の病を克服し、あるいは撲滅してきたではないか。

今、我々は20世紀初頭を生きた米国の思想家でエルバート・ハバードの言葉を思い出そう。

彼はこう言った。

『挑戦をあきらめてしまうこと以外に敗北などない』と。

また古代ローマ帝国の哲学者セネカは、こう語った。

『難しいからやろうとしないのではない。やろうとしないから、難しくなるのだ』と。

だからこそ不可能を可能に変えるために立ち上がろうではないか。

翻ってみれば、現在は遠隔医療や医療のデジタル化への遅れ、また新型コロナウイルス禍による検査、診察、がん手術などの延期や放置など、本来享受すべき患者の権利が著しく侵食されていると断言せざるを得ない。

そこで我々は、大阪の地から世界レベルでの患者ファーストを掲げて、かつての騎士やサムライのように患者の権利を防衛し、患者を守る行為を遂行しよう。

患者の側に立った提言や政府への働きかけを行うことでがん医療の進化、発展に貢献していこう。

誰かが誰かの命のために、自ら立ち上がり、世界の有志と連携していく、その先陣を大阪から切ろうではないか。

我々がまずやらねばならないのは次の3つのテーマである。

1. 治療の強化、発展による患者の権利のディフェンス
2. デジタル改革による患者の権利のディフェンス
3. がん医療改革による患者の権利のディフェンス

さらに具体的なロードマップは次の通りである。

- ① 我々はアジアの先端医療を強化する。そのためには大阪のPMDA関西支所に先端医療の審査機能を加え、これを強化することを支援していく。これによって大阪

を世界的な先端医療開発シティと位置づけ、人類のがん撲滅に向けた動きを加速化させる。

- ② がん予防、少量抗がん剤治療などがん代替療法、免疫治療、ウイルス療法の遺伝子治療などの未来医療を世界レベルで発展させてゆく。
- ③ すい臓がんなどの難治性がん、希少性がんの治療に対する世界レベルでの連携、強化、新たな治療法への挑戦を開始する。
- ④ マクロフェージをがん予防に活かすべく世界的な研究者や企業のネットワークを構築する。更に 2025 年を目標にがん予防薬の本格的な開発をスタートアップさせよう！
- ⑤ 歴史の転換点と位置づけ 2030 年をがん撲滅元年とする。これに向けてあらゆるがん種に対する治療強化、患者ファースト医療の実現を図る。
- ⑥ がん医療の世界の多様性と調和を認め、プレシジョン医療を推進することにより、各国政府にプレシジョン医療推進部局の設置を求めている。
- ⑦ 世界的なゲノム医療データセンターを構築し、がん医療に応用。世界レベルで医療のデジタル改革を進め、人類の創薬力を強化する。
- ⑧ 2025 年の大阪・関西万博を、こうしたロードマップの号砲とし、さらにはがん医療の歴史的転換点としよう。そして先端医療の進化と応用をテーマとした『大阪・関西万博がん撲滅サミット 2025』開催を目指そうではないか！

こういうことを我々は『大阪医療ルネッサンス』構想として大阪府などに具体的な提言活動を行い、2025 大阪・関西万博の開催に向けて本格的な健康・医療都市造りを目指そう。がんになっても大阪市民、大阪府民、そして日本国民が回復し、健康長寿社会を実現できるモデルケースを構築していこう。

大阪から、この輪を世界に広げ、がんゼロ社会を実現しよう！ 約 4000 年もの長きにわたり戦い続けた人類を、いよいよがんから解放しようではないか。

2021 年 12 月 5 日のこの日。我々世界の有志は、ともに手を携え、がんを撲滅する騎士としてサムライとして記念すべき第一歩を、ここ大阪の地から力強く踏み出すこととする。

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』実行委員会
及び参加者、賛同者一同
アライアンス・フォーラム財団



患者さんの
大切な人生を守る挑戦は、
きっと叶えられる。

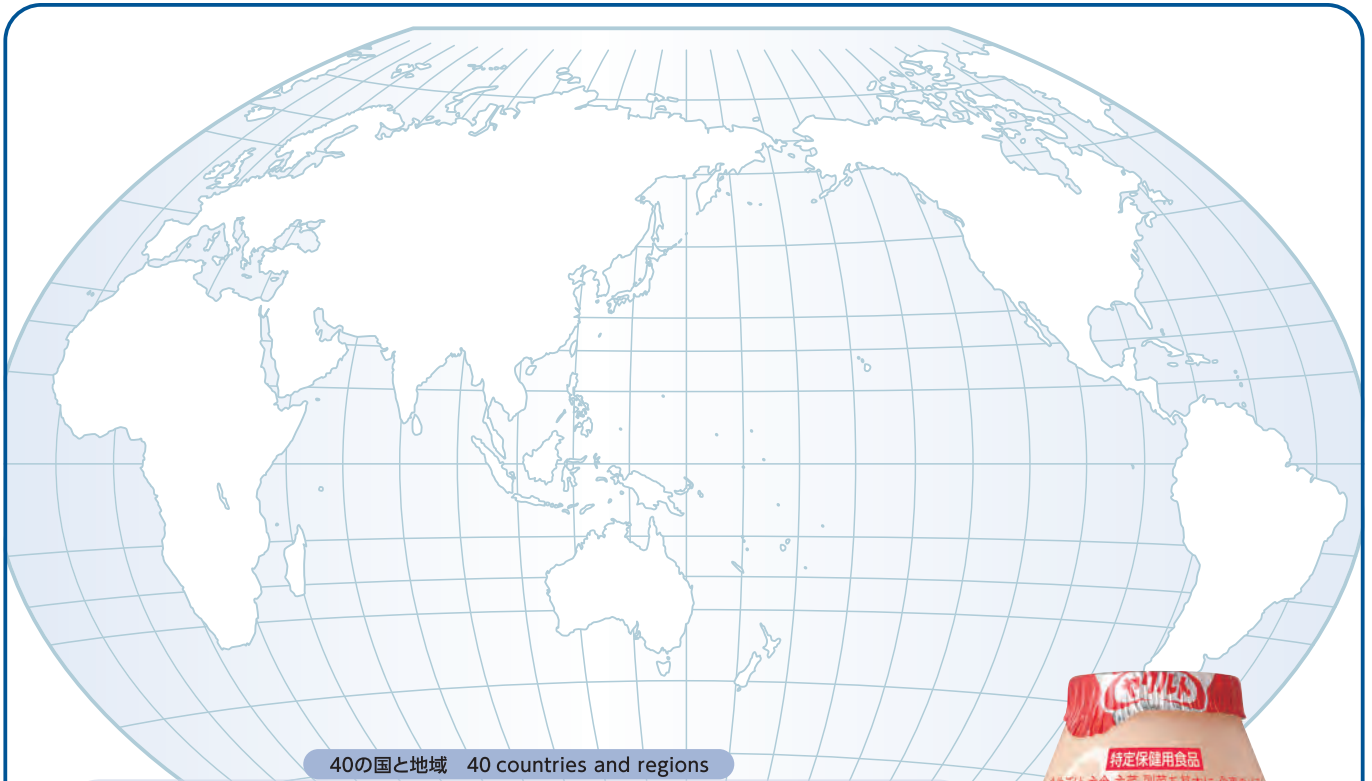
NEVER SAY NEVER

ロート製薬の「NEVER SAY NEVER」

この言葉には、世の中を健康にするためにどんな困難にもめげず、
常識の枠を超えてチャレンジし続けるという意味が込められています。
世界がん撲滅サミットの挑戦に、
私たちは深く共感し、その活動に協賛いたします。



ロート製薬は、
世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA
を応援しています。



40の国と地域 40 countries and regions

【アジア・オセアニア / Asia and Oceania】
 アラブ首長国連邦 / UAE
 オマーン / OMAN
 パーレーン / BAHRAIN
 カタール / QATAR
 クウェート / KUWAIT
 ミャンマー / MYANMAR
 日本 / JAPAN

台湾 / TAIWAN
 香港 / HONGKONG
 タイ / THAILAND
 韓国 / SOUTH KOREA
 フィリピン / THE PHILIPPINES
 シンガポール / SINGAPORE
 インドネシア / INDONESIA
 オーストラリア / AUSTRALIA
 ニュージーランド / NEW ZEALAND
 マレーシア / MALAYSIA
 ベトナム / VIETNAM
 インド / INDIA
 中国 / CHINA
 ブルネイ / BRUNEI

【アメリカ / The Americas】
 ブラジル / BRAZIL
 メキシコ / MEXICO
 アメリカ / USA
 ウルグアイ / URUGUAY
 カナダ / CANADA
 ベリーズ / BELIZE

【ヨーロッパ / Europe】
 オランダ / THE NETHERLANDS
 ベルギー / BELGIUM
 イギリス / UK
 アイルランド / IRELAND
 ドイツ / GERMANY
 オーストリア / AUSTRIA
 イタリア / ITALY
 ルクセンブルク / LUXEMBOURG
 フランス / FRANCE
 スペイン / SPAIN
 マルタ / MALTA
 スイス / SWITZERLAND
 デンマーク / DENMARK



世界で飲まれているプロバイオティクス。 The Probiotic consumed around the world.

プロバイオティクスとは、腸内細菌のバランスを改善することにより、ヒトの健康により働きをする、生きた微生物のことです。

腸に生きたまま到達するプロバイオティクス「乳酸菌 シロタ株」は、その働きが認められ、「ヤクルト」として、現在、日本をはじめ世界 40 の国と地域で飲まれています。

Probiotics are live microorganisms that benefit a person's health by improving the balance of intestinal microbiota. It has been recognized that the probiotic *Lactobacillus casei* strain Shirota reaches the intestines alive and it is currently consumed as "Yakult" in 40 countries and regions throughout the world, including Japan.

人も地球も健康に
Yakult

YAKULT HONSHA CO.,LTD.
 1-10-30, Kaigan, Minato-ku, Tokyo, 105-8660 Japan
<https://www.yakult.co.jp>

三井住友海上は、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsで 人と自然をつなぐ



©Hobby's World
岩本 多生

東京都の保護上重要な野生生物種「レッドリスト」に登録されている「ヒメアマツバメ」の営巣が確認される

駿河台ビルでグリーンレジリエンスに貢献

三井住友海上駿河台新館（東京都）

三井住友海上駿河台ビル（東京都）

都市型水害の低減

土の地面と雨水槽で
下水道の溢水を防止

生物多様性の保全

都心の緑をつなぎ、
いきものの生息空間を拡張

ヒートアイランド対策

木陰と植物の蒸散効果で
ビル街の暑熱を緩和

3階 屋上庭園

1階 レインガーデン

雨水をトイレの
洗浄水などに再利用

地下 大型雨水槽

都内トップクラス/
容量3,500m³

雨水をためて都市型水害を低減

立ちどまらない保険。

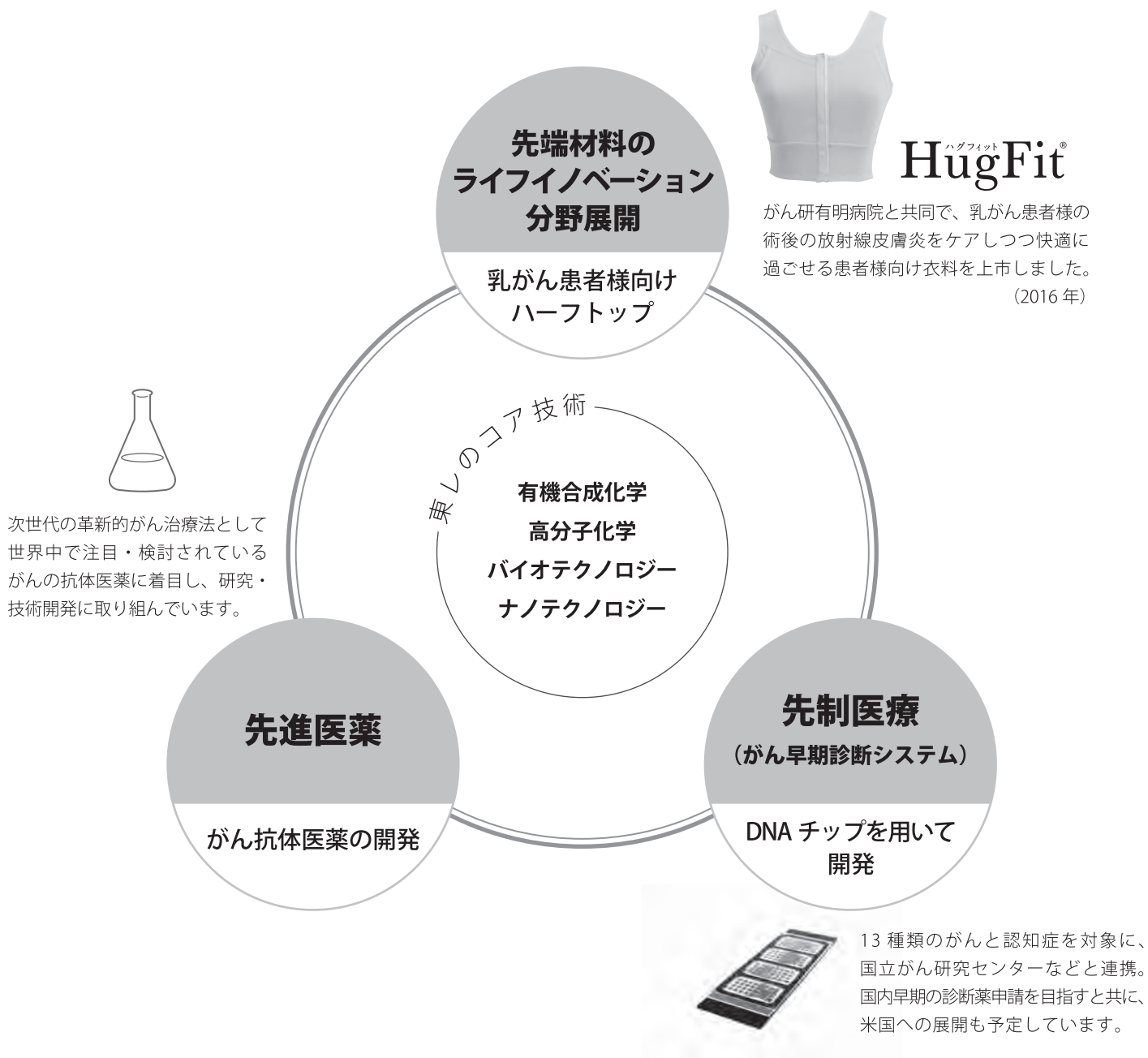
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



東レによるがん領域の開拓



life
innovation

東レのライフイノベーションへの取り組みには、2つのカテゴリーがあります。1つめは、東レのさまざまな事業分野の**先端材料**を、医薬品・医療機器用資材、先進診断装置用部材などの**ライフイノベーション分野**へ展開すること。2つめは医療分野で、**先進医薬**と、病気を早期に発見し治療してしまうという、**先制医療**がキーワードです。

<http://www.toray.co.jp/technology/toray/life/>

東レは、がん撲滅サミットを支援します



生薬には、
個性がある。



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



再生医療の明日を拓く 「セラボヘルスケアサービス」始動



再生医療分野への新たな挑戦

ダイダシ株式会社では、再生医療の普及と関連事業の創出を目指して、2017年4月にオープンラボ「セラボ殿町」を開設し、医療施設やベンチャー企業の皆様に、新発想で使いやすい細胞培養加工施設（CPF）や、細胞培養加工に適した環境を構築する製品を開発してきました。

『セラボヘルスケアサービス株式会社』は、ダイダシ株式会社がこれまで培ってきた技術と実績を引き継ぎ

- ・細胞培養加工施設（CPF）の運用・構築コンサルティング、設計・監理
- ・再生医療向けの装置・機器類の製造・販売
- ・細胞培養加工施設（CPF）のレンタル、運用支援、細胞製造受託など

をはじめとした関連サービスを開拓して参ります。



セラボヘルスケアサービス株式会社

<https://cellabhs.co.jp/>

ダイダシ株式会社

<https://www.daidan.co.jp/>

【お問合せ先】

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番22号 ライフイノベーションセンター R407
TEL: 044-276-5010 FAX: 044-280-0036 e-mail: cellab-info@daidan.co.jp

生命保険協会は

超高齢社会を支えていくために
様々な取り組みを進めています。



相談・苦情受付

【生命保険相談所の運営】

生命保険相談所では、生命保険に関する相談や苦情について、お客様の疑問や悩みを整理し、解決に向けたアドバイスを行います。



高齢者への情報提供

【高齢者向け情報冊子の発行】

高齢者を対象とした、保険の加入から受取りに至るまでのあらゆる場面に関する情報や留意点をまとめた情報冊子を発行しています。

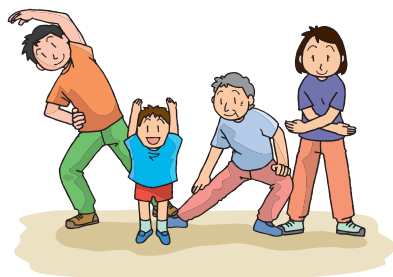


特殊詐欺の注意喚起

【被害防止啓発ポスターの作成】

オレオレ詐欺や架空請求詐欺など特殊詐欺被害防止のための啓発ポスターを作成し、注意喚起を行っています。

健康増進啓発活動



【健康寿命の延伸に向けた啓発活動】

健康寿命の延伸に向けた啓発活動を積極的に推進するために、全国各地のウォーキング大会に協賛しています。また、健康づくりに役立つ情報冊子の配布なども行い、健康増進に対する意識の向上に取り組んでいます。

生命保険協会ホームページでは、
様々な情報を掲載しています。
是非ご利用ください。

<http://www.seiho.or.jp>

生命保険協会

検索





日本建設業連合会は 社会貢献活動を推進しています

アイサワ工業(株)	青木あすなろ建設(株)	あおみ建設(株)	浅沼組(株)	安藤・間(株)
伊藤組土建(株)	岩田地崎建設(株)	(株)大林組	(株)大本組	(株)奥村組
オリエントアル白石(株)	鹿島建設(株)	鹿島道路(株)	株木建設(株)	北野建設(株)
(株)熊谷組	(株)鴻池組	五洋建設(株)	佐藤工業(株)	三幸建設工業(株)
清水建設(株)	ショーボンド建設(株)	西武建設(株)	(株)銭高組	大成建設(株)
大成ロテック(株)	大日本土木(株)	大豊建設(株)	高松建設(株)	(株)竹中工務店
(株)竹中土木	鉄建建設(株)	東亜建設工業(株)	東急建設(株)	東洋建設(株)
戸田建設(株)	飛島建設(株)	(株)ナカノフドー建設	西松建設(株)	(株)NIPPO
日本道路(株)	日本国土開発(株)	(株)長谷工コーポレーション	(株)ピーエス三菱	(株)福田組
(株)フジタ	(株)不動テトラ	(株)本間組	前田建設工業(株)	前田道路(株)
松井建設(株)	(株)松村組	三井住友建設(株)	みらい建設工業(株)	村本建設(株)
寄神建設(株)	りんかい日産建設(株)	若築建設(株)		

日建連「社会貢献活動協議会」構成58社

魅力的なまちづくりの推進や 豊かな住生活の実現を通じ、 日本経済の持続的な成長に 貢献してまいります。

昭和38年3月に社団法人として設立された不動産協会は、国民生活の向上と日本経済の持続的な成長に向け、土地、都市、住生活などに関わる諸問題について、様々な政策提言を行うとともに、調査・研究、社会貢献活動等に取り組んでおります。

今後も、大都市の国際競争力の強化、魅力的なまちづくりの推進、豊かな住生活の実現、環境への取組み等を通じ、ポストコロナも見据えた持続的な成長の実現に貢献してまいります。

一般社団法人 不動産協会

理事長 菰田 正信

事務局 〒100-6017 東京都千代田区霞が関3丁目2番5号(霞が関ビル17階)

電話 (03) 3581-9421 <http://www.fdk.or.jp>

大阪事務所 〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番18号(住友中之島ビル2階)

電話 (06) 6448-7460

名古屋事務所 〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47番1号(名古屋国際センタービル8階)

電話 (052) 571-8050



株式会社 エフ・アール・シー・ジャパン

Proud sponsor of the
Cancer Eradication Summit

**MIRAI
TRUST**
INCORPORATED

想いを未来に つなぐために

未来トラスト株式会社およびグループ会社は
だれもが自分自身の可能性にチャレンジでき
日本が国際的に貢献できる社会の実現に向けて
新しい金融の仕組みづくりに取り組んでいます

Toward The Future

未来トラスト株式会社・一般財団法人和財団

東京都港区虎ノ門 4-3-1 城山トラストタワー
<https://miraitrust.co.jp>





総合不動産企業として
全国に土地を展開し、
都市づくりをプロデュースします。



アーク不動産株式会社

本 社

〒541-0042 大阪市中央区今橋2丁目5番8号 トレードピア淀屋橋
TEL. 06-6231-7721 (代表) FAX. 06-6231-7722

東京支店

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目12番5号 京橋YSビル6階
TEL. 03-5159-2136 (代表) FAX. 03-5159-2175

京都支店

〒604-8153 京都市中京区烏丸通四条上る笋町691番地 りそな京都ビル9階
TEL. 075-256-8477 (代表) FAX. 075-256-8478

名古屋支店

〒450-6040 名古屋市中村区名駅一丁目1番4号 JRセントラルタワーズ40階
TEL. 052-307-6301 (代表) FAX. 052-307-6302

福岡支店

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目8番19号 大福ビル
TEL. 092-738-5790 (代表) FAX. 092-738-5791

<http://www.ark-re.co.jp>



パッケージを通して、暮らしに安全と安心を

OSPグループは、総合パッケージメーカーとして包装の未来を創ります



OSPグループは
世界がん撲滅サミット2021 in OSAKAを
応援しています

【国内グループ会社】

- 株式会社OSPホールディングス
- OSPマシナリー株式会社
- OSPハートフル株式会社

- 大阪シーリング印刷株式会社
- 株式会社OSPレーディング
- OSPレーベルストック株式会社

- OSPアドバンス株式会社
- OSPゴールドシー株式会社
- プリントビズ株式会社

【海外グループ会社】

- PRIMARK AMERICA CORPORATION
- OSP LABEL (THAILAND) CO.,LTD.

- 大阪希琳閣印刷(蘇州)有限公司
- OSP CEBU CORPORATION

- 威海延豊膠粘印刷有限公司
- OSP AUSTRALIA PTY LTD



www.osp-group.jp

60th anniv.

Since 1961.9.21

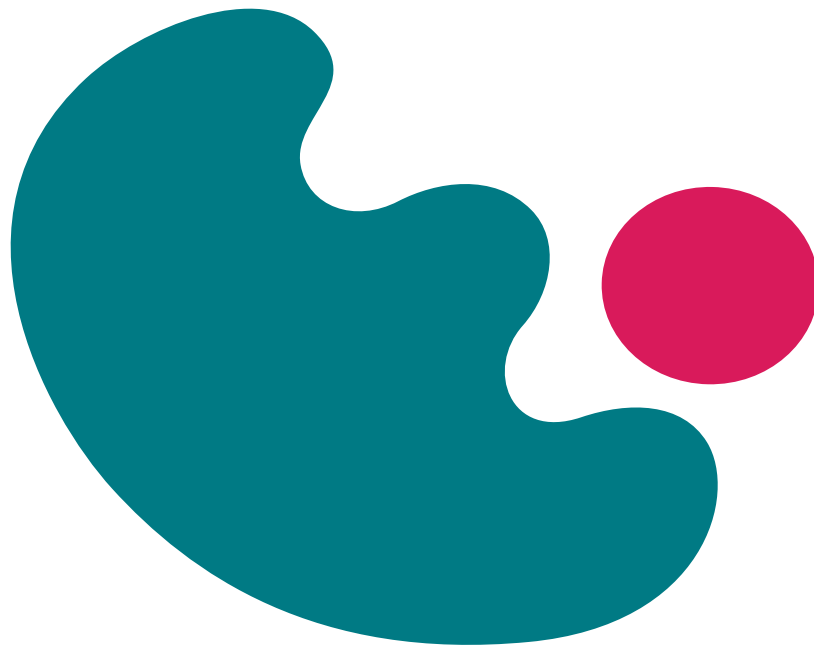


Image Creation & Information Services
Express

さまざまなニーズに合わせた
総合不動産会社です



ジャパン エステート株式会社

本 社 〒541-0042
大阪府中央区今橋2丁目5番8号トレードピア淀屋橋16F
TEL : 06-6233-3188 FAX : 06-6233-3187

東京支社 〒104-0061
東京都中央区銀座1-2-4サクセス銀座ファーストビル6F
TEL : 03-5159-1238 FAX : 03-3564-0040
URL : <http://www.jpe.co.jp>



メディカルサービス 株式会社

医療と保育を通して人々の笑顔のために



〒530-0013 大阪市北区茶屋町3番1号



願いをこめた新薬を、 世界のあなたに届けたい。

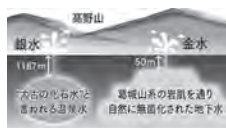
「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」

わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。

待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。

ONO 小野薬品工業株式会社

「ミネラルウォーター 月のしずく」
届けたいのは
「いのち」とつながるお水です。



「月のしずく」は、和歌山県橋本市神野々にある天然温泉施設「ゆの里」に湧く「金水」と「銀水」と呼ばれる2つの天然水をブレンドしたミネラルウォーターです。



お問い合わせは

TEL 0736-32-2929 FAX 0120-34-2326

「ゆの里」公式ホームページ www.spa-yunosato.com



ALSOKの介護

目指すのは「最高の介護品質」です。

お客様に寄り添い
自分らしい
暮らしをサポート

サービス改善

お客様からのご意見や、日々の気づきをサービス内容の改善につなげます

人財確保・育成

高品質な介護サービスを支える人財を育成しています

デジタル化推進

サービス内容の高度化と、職員の負担軽減につながるICT活用を目指します

多職種連携

様々な職種の方との連携を強化し、地域包括ケアの具体化を目指します



■「ALSOKの介護」のサービス特長

笑顔あふれる
毎日をサポートします!!

- 1 あらゆるお客様に対応したサービス体制
毎日のみまもりから、在宅・施設介護まで充実のラインアップ
- 2 充実の健康増進メニュー
身体状況に応じた医療・リハビリ提供、充実の認知症対応
- 3 安全安心を最優先
お客様の生活空間に安全安心なサービスを提供、防災対策も充実
- 4 安定した経営・財務基盤
ALSOKグループの安定した経営・財務基盤

ALSOK介護 0120-294-772

らいふ 0120-055-218

ケアプラス 0120-8556-39

運営会社

サービス内容

有料老人ホーム、認知症対応型グループホーム、居宅介護支援、訪問介護、訪問看護、デイサービス、福祉用具販売・貸与

サービス提供エリア

宮城・埼玉・東京・千葉・神奈川・愛知・大阪・兵庫

サービス内容

訪問医療
マッサージ

サービス提供エリア

全国23拠点



TOTOのユニバーサルデザイン

つくるって、人を思うこと。

どんな人が使うかを、思う。
その人はどんなことに困るかを、思う。
その人はどうすれば快適かを、思う。
できる限りたくさんの「その人」を、思う。



モノをつくる時、空間をつくる時、
TOTOが最初から最後まですることは、人思い。
すべての人の、よりよい暮らしのために、
とことんすべきことは人思いしかない。
優しさと知恵と技術と努力。

ユニバーサルデザインは、TOTOのすべてです。



TOTO

商品のお問い合わせは TOTOお客様相談室 ☎0120-03-1010 受付時間 9:00~17:00 (夏期休暇・年末年始を除く)
TOTOユニバーサルデザインサイト <https://jp.toto.com/ud>

環境事業

土木

建築

型枠

自然と社会と心の調和そして融合



株式会社 オキ・コーポレーション

〒210-0821

神奈川県川崎市川崎区殿町 2-3-15

TEL 044-280-1701 FAX 044-280-1702

URL www.oki-cp.co.jp



代表取締役会長 沖山 朝紀

代表取締役社長 飯田 正信

～世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA は『患者の権利 2021』を応援します!～

【患者の権利 2021】

2019年6月に「がん遺伝子パネル検査」が保健承認されました。これにより、がん種別治療から遺伝子変異に合わせたがん治療が始まっています。所謂プレジジョン医療(オーダーメイド治療)の流れが、世界のがん治療のトレンドになると思います。しかし、日本では「がん遺伝子パネル検査」は、「標準的治療が終了し、他の治療を検討している」「標準的治療がない」「原発不明がん」「希少がん」「小児がん」等にしか認められていません。すい臓がんの場合、標準治療終了後では間に合わないことが多いのです。そこですい臓がん等難治性がんについては早い段階で「がん遺伝子パネル検査」を受けられるようにして頂きたい。

また、プレジジョン医療ではこれまでのような3相治療は現実的ではないので、1相または2相で効果の有った治療法は可能な限り早く承認して頂きたい。

上記は、今私が感じていることですが、膵臓がん罹患から11年半、3回の手術、6年間の共存経験から、患者の望むがん治療が、一部医師や病院により否定されていることが有ります。例えば、

- ・セカンドオピニオンを認めない。
- ・紹介状・画像・組織を他の医療機関に提供しない。
- ・治療法がほぼ底をついた患者が、標準治療以外を口にした途端「出て行け」と言う。

本来、治療は医師と患者がコミュニケーションを取り、幾つかの治療法から最終的に患者が決定するものだと思います。専門分野における医師の知識は素晴らしいと認めますが、新しい治療法については、必ずしも全ての医師が熟知している訳ではありません。また、化学療法については「がん拠点病院」では標準化が進んでいますが、個別の治療法が提供可能な病院も有ります。患者としては、セカンドオピニオンを求めること、現在掛かっている病院が提供できない治療を受けたい、と思うのは必然的だと思います。

そこで「患者の権利 2021」として、患者の求めがあれば全ての医療機関が

- (1) 治療経緯を記載した紹介状を速やかに発行
- (2) 画像データの開示
- (3) 手術後のがん組織の提供
- (4) がん拠点病院として、その患者の治療経緯のデータ保存
- (5) 紹介状発行後の継続治療の保証と治療拒否の撲滅

を行うことを求めます。

がん医療が患者のために変わることを祈っています。

すい臓がんサバイバー 高村 僚

みやび坂総合法律事務所は、JR 新宿駅から徒歩 5 分の
リンクスクエア新宿に所在する法律事務所です。

弁護士の高橋淳(『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』法律顧問)、
光野真純及び宮川利彰は、がん患者及び良心的ながん専門医
を法的観点からサポートする業務を行っております。

取扱業務

- ◆ がん患者の休職および退職に関する法律問題
- ◆ 不当に高額な診療請求等についての対応
- ◆ クレイマー患者等に対する対応
- ◆ 医療法人の経営等に関する法律問題 (労務問題を含む)
- ◆ がん患者及び家族に対するサポート
- ◆ その他、がん関連法務全般



『世界がん撲滅サミット2021 in OSAKA』法律顧問

弁護士・弁理士 高橋 淳

(東京弁護士会所属)

1998年 弁護士登録。

2003年 日弁連知的所有権委員会(現:日弁連知財センター)委員に就任。

2005年 経済産業省主催の「営業秘密の適正管理のあり方に関する研究会」の委員に就任。

2005年 特許庁工業所有権審議会臨時委員に就任。

2008年 日弁連知財センター委員に就任。

2014年 工業所有権審議会試験委員(弁理士試験)に就任。

みやび坂総合法律事務所

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 リンクスクエア新宿16階

TEL:050-5534-8882 FAX:03-6701-7231

協賛企業、団体、ご寄付者一覧（順不同）

一般社団法人 生命保険協会 様
一般社団法人 日本建設業連合会 様
ロート製薬株式会社 様
東レ株式会社 様
株式会社ツムラ 様
ダイダン株式会社 様
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 様
OSPグループ 様
マザーケアジャパン株式会社 様
メディカルサービス株式会社 様
TOTO 株式会社 様
株式会社オキ・コーポレーション 様
株式会社エキスプレス 様
岡山県極真空手道連盟 様
世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 参加者の皆様

一般社団法人 日本損害保険協会 様
一般社団法人 不動産協会 様
株式会社ヤクルト本社 様
日本航空株式会社 様
三井住友海上火災保険株式会社 様
小野薬品工業株式会社 様
未来トラスト株式会社 様
ジャパンエステート株式会社 様
アーク不動産株式会社 様
TRIBAWL 株式会社 様
ALSOK 総合警備保障株式会社 様
株式会社重岡 様
みやび坂総合法律事務所 様
坂本泰子 様

他の皆様、ご支援本当にありがとうございました。

謝辞

皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

亡き北島政樹先生はじめ今回の『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』開催に対しまして多大なるご支援をいただいた牧野徹先生、二川一男先生、ご来賓、ご講演をいただいた皆様をはじめ、内閣総理大臣 岸田文雄先生、また前内閣総理大臣補佐官 和泉洋人様、厚生労働大臣 後藤茂之先生、厚生労働省医務技監 福島靖正様、文部科学省科学技術・学術政策局長 菱山豊様、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原文人先生、丹治幹雄様、磯野昌英様、熊地叔子様、公益社団法人日本医師会 会長 中川俊男先生、大阪府東京事務所 所長 春名克俊様、大阪市東京事務所 所長 浜ノ園英樹様、公益社団法人関西経済連合会 会長 松本正義様、専務理事 関総一郎様、一般社団法人大阪府医師会 会長 茂松茂人様、事務局長 石川宏様、課長 小澤秀行様、大阪府医師協同組合 理事長 小谷泰様、事務局長 竹田幹様、事務局次長 清田浩正様、ロート製薬株式会社 代表取締役会長 山田邦雄様、内閣府健康・医療戦略推進事務局 事務局長 八神敦雄様、大阪国際がんセンター 乳腺内分泌外科 主任部長 中山貴寛様、東京女子医科大学病院副院長 新浪博士様、池田泉州銀行 頭取 CEO 鶴川淳様、株式会社エキスプレス 代表取締役会長 大富國正様、取締役 大富将司様、取締役 田村堅三様、ゼネラルプロデューサー 福田亘男様、一般社団法人 日本医学会連合会 会長 門田守人先生、東京都知事 小池百合子先生、志方俊之先生、熊本県知事 蒲島郁夫先生 ほか、大会パンフレットにメッセージをお寄せいただいた皆様、細川恒先生、厚生労働省大臣官房総括審議官 佐原康之様、厚生労働省 内閣官房審議官 大坪寛子様、厚生科学課長 佐々木昌弘様、医療機器審査管理課長 河野典厚様、がん・疾病対策課の皆様、公益社団法人日本医師会 の皆様、藤田医科大学病院 国際医療センター センター長、教授 前田耕太郎様、山内千里様、番匠幸一郎様、一般社団法人防衛技術協会 参与 國重博史様、東京大学大学院 國重莉奈様、北岡優希様、谷田部二郎様、ライオンズクラブ国際協会第 99 代国際会長、社会医療法人 厚生会木沢記念病院理事長 山田實紘先生、佐治重豊先生、山形大学医学部 参与 嘉山孝正先生、株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長 清水美博様、取締役 濱田充様、未来トラスト株式会社 代表取締役 CEO 四方田良紀様、遠山宏美様、株式会社 OSP ホールディングス 代表取締役社長 松口正様、津森敏弘様、ジャパン エステート株式会社 代表取締役社長 西田宏様、本社管理部部長 山野拳司様、メディカルサービス株式会社 代表取締役社長 秋本孝幸様、株式会社アドバンス 代表取締役社長 渋谷君美義様、TRIBAWL 株式会社 代表取締役社長 山本雄一郎様、宮下純一様、三井住友海上火災保険株式会社 公務開発部長 福田和弘様、株式会社ツムラ 代表取締役社長 加藤照和様、漢方研究開発本部長 今田明人様、東レ株式会社 代表取締役副社長 阿部晃一様、橋本和司様、松田良夫様、曾根三郎様、ALSOK 総合警備保障株式会社 代表取締役社長 青山幸恭様、一般社団法人日本生活習慣病予防協会 名誉会長 池田義雄様、一般社団法人 経済団体連合会 副会長・事務総長 久保田政一様、常務理事 藤原清明様、総務本部審議役 井ノ川正明様、総務本部統括会員主幹 東智樹様、飛田康男様、公益社団法人 経済同友会 様、日本商工会議所 専務理事 石田徹様、産業政策第一部長 山内清行様、総務部長 塩野裕様、課長 新田大介様、一般社団法人 生命保険協会 副会長 佐々木豊成様、事務局次長兼総務部長 宇田川俊秀様、一般社団法人 日本建設業連合会 副会長・常務執行理事 原田健様、事務局長 佐沢英紀様、江川真紀子様、一般社団法人 不動産協会 専務理事 内田要様、事務局長 森川誠様、国立国際医療研究センター 理事長 國土典宏様、秘書 鈴木広子様、公益財団法人 日本対がん協会 会長 垣添忠生先生、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 理事長 近藤達也様、業務執行理事 北野選也様、読売新聞東京本社 解説部長 山口博弥様、医療部長 館林牧子様、東京熊本県人会の皆様、東京都福祉保健局 医療政策部 計画推進担当課 千葉清隆様、渡辺昌則様、同医療政策部 医療政策課 統括課長代理 小澤双幹様、一般社団法人 情報サービス産業協会 常務理事 廣瀬毅様、一般社団法人 ソフトウェア協会 理事・事務局長 原洋一様、日本製薬団体連合会 様、一般社団法人 日本損害保険協会 副会長 牧野治郎様、塚本真之様、宇田川友順様、YKKap 顧問 小山田誠太郎様、TOTO 株式会社 特販本部長 吉田伸典様、株式会社重岡 代表取締役社長 重岡昌吾様、みやび坂総合法律事務所 弁護士 高橋淳様、株式会社 ストリームス様、株式会社スマッシュ様、加藤恒也様、三好立様、堀信一様、中見理嘉様、岡山県極真空手道連盟 代表 西田憲治様をはじめとする皆様、塚本恭史様、木村重明様、有路友一様、相澤直也様、越山裕基様、高村僚様、山内こずえ様、大森茂様、国際医療福祉大学 医療福祉管理部 総務部 吉野里美様、サイマル・インターナショナル 陽栄里子様、重松加代子様、星島奈美様、MC 永野さおり様、大阪国際会議場 池本純貴様、日本体育大学の皆様、日本体育大学ボクシング部の皆様 ほか、あえてここにお名前を掲載していませんが、『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』開催にあたり、これまでご尽力いただきました皆様心より感謝申し上げます。引き続き『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』をご支援いただけますと幸いです。

『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』実行委員会一同
＜2021年12月5日現在。敬称略・順不同＞

※本大会で使用する楽曲は、JASRAC のご理解をいただいております。

2022年、いよいよ大阪から未来へ！

今、大阪から始まる がん医療革命への挑戦！

開催決定！

～ 2025大阪・関西万博成功祈念～

世界がん撲滅サミット 2022[®] in OSAKA

参加無料(要事前予約) <https://cancer-zero.com>

2022年11月3日(木・祝日)

開演／13:00【開場／12:30】

会場／大阪国際会議場

※2021年12月5日現在の予定です

主催 | 世界がん撲滅サミット 2022 実行委員会

後援
(予定)

大阪府、大阪市、一般社団法人 大阪府医師会、公益社団法人 関西経済連合会、一般社団法人 関西経済同友会、大阪商工会議所、外務省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、総務省、農林水産省、デジタル庁、AMED 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構、公益社団法人 日本医師会、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人 経済同友会、日本製薬団体連合会、一般社団法人 日本建設業連合会、一般社団法人 不動産協会、一般社団法人 生命保険協会、一般社団法人 日本損害保険協会、一般社団法人 全国警備業協会、一般社団法人 情報サービス産業協会、一般社団法人 ソフトウェア協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN、公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、読売新聞社 ほか(順不同)